

Kyoto Institute of Technology.

大学概要



KYOTO
INSTITUTE
OF TECHNOLOGY
2023
—
大学概要

Contents

02	学長挨拶
03	大学の理念
04	大学の特色/シンボルマーク
—	
05	沿革
08	管理運営組織
09	教育研究組織
10	事務組織
11	学域説明
12	学部における教育
13	大学院における教育
—	
16	センター・拠点等説明
—	
22	歴代学長/役職員等
—	
24	学生数
26	入学者選抜実施状況
28	奨学生数/卒業生数
29	修士および博士の学位授与数
30	進路状況
—	
31	国際交流
34	大学開放事業
35	大学間交流/大学等連携
36	小中高大連携/産学連携
37	地域連携
—	
38	財政状況
39	外部資金受入状況/特許等出願状況
—	
40	厚生施設/研修施設/課外活動施設等
41	土地・建物
—	
42	キャンスマップ/アクセスマップ
44	学歌/学年暦

学長挨拶



KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY、京都工芸繊維大学は、世界に知られた歴史文化都市 京都にある国際的工科系大学です。文化は産業を基盤とした人々の営みによって培われます。京都は、伝統産業の発信拠点として、日本の文化の本質にあたる多くの「もの」を生み出し、醸成し、そして洗練してきました。いわゆる伝統工芸といわれるものづくりの技術は、単に継承されるだけのものではなく、常に新しい技術を創出し、革新的な挑戦を続けることによってさらに研ぎ澄まされ、国内外の信用を得つつ、現代の科学技術によるものづくりにも活かされてきたのです。そのものづくりの神髄は、人々の生活を豊かにすることを思考することで、社会的なイノベーションを常に生み出そうとする「みやこ」としての自負によってなされてきたものです。この京都の地が育んできた心意気と創造的挑戦心を、我々は「京都思考(KYOTO Thinking)」と表しました。「京都思考」を工学の研究・教育に活かし実践する、これこそが本学のミッションです。

本学で育成を目指している人材は単なる技術者ではありません。現代の社会や産業が直面しているさまざまな課題に対して、挑戦的に立ち向かえる、信頼できる人材を育成しようとしています。それは、理工学の専門的知識・技能を確実に身につけ、リーダーシップを發揮しつつ、Human orientedな精神で、グローバルな社会を見据えたプロジェクトを牽引し、成功に導くことができる高度専門技術者です。このような人材を本学では「TECH LEADER」と名付けています。TECH LEADERを育成するために、本学では「専門力」、「リーダーシップ」、「外国語運用能力」、そして「個の確立」の4つを「工織コンピテンシー(コンピテンシーとは、知識だけでなくスキル、行動も含んだ能力)」として位置付け、それらを確実に修得できるよう教育、研究指導を行っています。

2022年4月に本学は、人類が「平和で豊か」な美しい社会を育むことに貢献するような「新価値の創造を目指す」ことを目標として「未来デザイン・工学機構 Center for the Possible Futures (CPF)」を設置しました。 CPFでは、現在、専門分野の異なる教員がKYOTO AGORAと呼ぶ場に集い、2050年を見据えた「複数のありうる社会像 Possible Futures」を構想、討議するワークショップを重ねています。これらの活動により、持続可能な未来の望ましい社会像を結像して、それらに必要となる新価値創造プロジェクトを構築し、産業界や行政との連携、国際連携も行いながら実装に向けた研究活動を展開しています。またCPFでは、すでに実施されている大学院博士前期課程・後期課程一貫の教育プログラムDesign-centric Engineering Program (dCEP)の運営も担っています。 dCEPは、社会実装を目指す実習の場であるセッションを中心として構成し、社会的課題や真のニーズを提示するクライアントとしての企業・行政、課題解決に関連する異分野の専門家が参加し、実践的な発想力・俯瞰力を持つデザイナーや研究者がファシリテーターとなってセッションをリードして行われています。社会的なイノベーションへの志向、そしてそれに連なる技術開発課題の解決は、専門に特化した研究だけでは実現できません。広範な分野の連携協働が必要です。なお、CPFには、KYOTO Design Lab、京都グリーンラボ、新素材イノベーションラボ、バイオメディカル教育研究センター、繊維科学センターが所属し、これらのラボ、センターでは産学協働の研究や大学院プログラムも実施されています。

加えて、地域社会への貢献も視野に、京都地域の企業等との連携を深めるとともに、京都府北部の福知山キャンパスを中心とする分野横断型の学部教育プログラム「地域創生Tech Program」の展開や、京丹後キャンパスおよび綾部地域連携室などの拠点も活用して地域連携事業を進めています。

京都から世界に向か、未来社会に貢献する新価値を創り出すこと、それが本学のビジョンです。

大学の理念

国立大学法人京都工芸繊維大学は、百二十有余年前、京都高等工藝学校及び京都蚕業講習所に端を発し、永きにわたり発展を遂げてきました。この間、日本文化の源である京都の風土の中で培われた、〈知と美と技〉を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきました。

二十一世紀において、本学は、国立大学法人として、自主自律の大学運営により社会の負託に応えるため、地球時代で顕在化し直面している幾多の課題の解決法を探求し、未来の持続可能な世界を実現する使命を負っています。

そのため、京都発の先鋭的な国際的工科系大学 KYOTO Institute of Technologyとして、これまでにない新しい発想や価値の創造を実現すべく、ここに本学の理念を宣言します。

理念

- 1 ART×SCIENCE、すなわち、未来を拓く夢・科学的空想・イノベーションのための飛躍につながるARTの発想と、緻密な分析に基づき、これに具体的形を与えるSCIENCEを統合させ、新価値の創造を目指します。
- 2 LOCAL×GLOBAL、すなわち、質の高いものづくりと信用に支えられたLOCALで培われた〈京都思考〉に基づき、持続可能な世界的問題を解決するGLOBALな〈地球思考〉を併せ、新価値の創造を目指します。
- 3 TRADITION×INNOVATION、すなわち、京都の歴史・文化TRADITIONへの深い造詣・共存と、それを基盤として磨かれた匠の技INNOVATIONを掛け合わせ、他に追随のできない信用ある新価値の創造を目指します。

社会的使命

国立大学法人京都工芸繊維大学は、京都が持つ知と技を活用して、教育研究を展開し、新たな価値創造による次世代の社会システムを構築することにより、地球と日本の未来に、人類が「平和で豊か」な美しい社会を育むことに貢献することを社会的使命として掲げ、以下に具体的戦略をアクションとして示します。

アクション

- 1 公共財として知的資源を集約させてきた本学は、教育研究を構造的・総合的に改革・推進するシステムを配備します。
- 2 本学は〈京都思考〉をベースとした、教育研究の基盤インフラであり、世界の知的機関とネットワークを構築し、人的・知的情報交換を推進するハブとなります。
- 3 京都地域を牽引し、産業のるっぽ〈京都バレー〉を構築し、また社会の発展を牽引すべく知的貢献を為します。
- 4 産業イノベーション、未来社会構築のための、異分野横断型の新領域構築システムを構築し、経済社会メカニズムを転換する新たな価値を創造する駆動力となります。
- 5 大学のガバナンス構造改革を進め、高い自律性を有し、内部質保証として業務のPDCAサイクルにより見える化と迅速な改革を促進します。

大学の特色

本学の持つ価値

本学の探求する〈知と美と技〉は、京都の文化・文明をベースとしたものです。それは以下に示されるものです。

- 高技術・高品質・完璧さを備える匠のものづくりと信用ベースの人間関係
- 卓越したシステムとスタイルの構築と発信
- 文化のダイバーシティと千年の知恵の集約
- 京都の地域社会から学ぶ発想と実装
- 問題解決を為すデザイン思考から未来の飛躍的発想を為すアート思考
- 異分野和合の知見による新領域学問の創成

人間と環境重視の学問

京都では、現在の日本文化の源となる文明、すなわちシステムや制度が造られてきました。この京都の地において、本学は、百二十年を超える歴史の中で培った学問的蓄積の上に立って、「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術の創生」というヒューマンオリエンテッドな科学技術を基軸に教育研究を展開してきました。

工芸科学部・大学院工芸科学研究科の一学部・一研究科で構成される本工科系大学には、応用生物学、物質・材料科学、電子電気工学、機械工学、情報工学・人間科学、繊維科学、建築・デザイン学から基盤科学までの幅広い分野において、多元的な社会実装を目指した個性ある教育研究を行っています。

(各学域のビジョンはQRコード参照)



シンボルマーク



国立大学法人となった本学の理念と姿勢をビジュアル化するため、シンボルマークが2005年7月に学内公募により制定されました。

シンボルマークには「知性と感性の響き合い」「知と美の結びつきと技」「伝統文化と先端科学の融合」の3つのテーマが反映されています。

左部分の丸みを帯びたフォルムは芸術と既存の形式にとらわれない柔軟な感性や豊かな人間性、右部分のシャープなフォルムは科学と人間の理論的な知性や理性をイメージしました。そして、左部分の人間をとりまく自然環境と右部分の人間が作り出す技術の2つが融合することにより、「科学と芸術の出会い」や「自然環境と科学技術の共生」を表現しています。

また、1つの根元から大きく広がりいく形態は、歴史的な古都である京都から世界に向けて人間・環境・産業・文化調和型の個性あふれる先端テクノロジーを発信していく様子を表し、それを可能にする確かな力量と豊かな感性の広がりを示しています。

色彩は京都の伝統を感じさせる落ち着いたトーンで統一しています。感性を表す左部分は柔らかく伸びやかな印象を与える暖色系、理性を表す右部分は冷静で堅実な印象を与える寒色系を配しました。

沿革

本学の歴史は、明治30年代初頭に始まる。日本の近代化が進み、時あたかも新しい世紀になろうとしたその頃、本学の前身である京都高等工藝学校(1902年、現在の左京区吉田に設置)と京都蚕業講習所(1899年、農商務省所管として現在の北区大将軍に設置)が開学した。

京都高等工藝学校は、1930年に左京区松ヶ崎に移転後、1944年に京都工業専門学校と改称された。他方、京都蚕業講習所は、1914年に文部省直轄の京都高等蚕業学校となり、1931年に京都高等蚕糸学校、さらに1944年には京都繊維専門学校と改称された。両前身校は、いずれも約半世紀にわたり、伝統文化の継承発展と近代工学の導入によって斯界に貢献し、当時の最先端技術を担う多数の優れた人材を世に送り出した。

1949年、戦後の学制改革により、両前身校はそれぞれ工芸学部、繊維学部となって、新制京都工芸繊維大学が発足した。

1951年には、夜間の工業短期大学部を併設し、以来、本学は、戦後の経済復興とそれに続く高度経済成長の中で、社会の要請と産業界の要望に応えて、幾度かの教育研究組織の改組・新設を行った。

1965、1966年には相次いで大学院修士課程として工芸学研究科(2専攻)と繊維学研究科(3専攻)を設置した。

1968年には、繊維学部を北区大将軍から工芸学部のある左京区松ヶ崎に移転し、両学部を現在の松ヶ崎キャンパスに統合した。

年号	学部	教育研究センター/附属施設
1899		京都蚕業講習所
1902	京都高等工藝学校	
1914		京都高等蚕業学校
1931		京都高等蚕糸学校
1944	京都工業専門学校	京都繊維専門学校
1949	京都工芸繊維大学	<ul style="list-style-type: none"> • 機織工芸学科 • 色染工芸学科 • 窯業工芸学科 • 建築工芸学科 • 養蚕学科 • 製糸紡績学科 • 繊維化学科
1950		*附属図書館
年号	学部	短期大学
1951	蚕糸別科	京都工芸繊維大学 工業短期大学部
1954	<ul style="list-style-type: none"> • 意匠工芸学科 • 工芸学専攻科 • 繊維学専攻科 	
1959	繊維別科	
1961	<ul style="list-style-type: none"> • 生産機械工学科 	
1963	<ul style="list-style-type: none"> • 電気工学科 	
1965		大学院
		<ul style="list-style-type: none"> • 工芸学研究科 • 機械工芸学専攻 • 生産機械工学科専攻
1966		繊維学研究科
		<ul style="list-style-type: none"> • 養蚕学専攻 • 製糸紡績学専攻 • 繊維化学専攻
1967	工業化学科	<ul style="list-style-type: none"> • 電気工学科専攻 • 色染工芸学専攻 • 窯業工芸学専攻 • 建築工芸学専攻 • 意匠工芸学専攻
1968	<ul style="list-style-type: none"> • 機械工学科 • 繊維工学科 	

1988年には、基礎的研究の主要な担い手である大学の役割が注目を浴びるようになった情勢に応えて、教育研究組織の大幅な改革と大学院博士課程の設置を計画し、工芸学研究科と繊維学研究科を合体させ、博士後期課程(3専攻)を含む工芸科学研究科を設置。また、学部学科の改組や、工業短期大学部を廃止して両学部における昼夜開講制の実施など、本学発足以来の抜本的な改革を行った。1998年には、繊維学部にデザイン経営工学科、大学院工芸科学研究科に先端ファイプロ科学専攻(独立専攻)を設置し、2002年にはデザイン経営工学専攻、2004年には建築設計学専攻を設置した。

2004年4月からは国立大学法人として新しいスタートを切った。

年号	学部	短期大学	大学院	教育研究センター/附属施設
1970	*無機材料工学科			*保健管理センター
1971			*工業化学専攻	
1972	*電子工学科		*機械工学専攻 *繊維工学専攻	
1974	*住環境学科		*無機材料工学科専攻	
1975	*蚕糸生物学科			
1976			*電子工学専攻	
1977	*建築学科			
1978			*住環境学専攻	
1979			*蚕糸生物学専攻	
1980				*美術工芸資料館 *廃液処理施設
1981			*建築学専攻	*情報処理センター
1983	*高分子学科			
1985	*応用生物学科			
1987			*高分子学専攻	*放射性同位元素実験室
1988	*機械システム工学科 *電子情報工学科 *物質工学科 *造形工学科		工芸科学研究科 (博士前期課程) *機械システム工学専攻 *電子情報工学専攻 *物質工学専攻 *造形工学専攻 *応用生物学専攻 *高分子学専攻 (博士後期課程) *機能科学専攻 *材料科学専攻 *情報・生産科学専攻	
1990				*地域共同研究センター
1992	京都工芸繊維大学 工業短期大学部閉学			*環境科学センター
1995				*大学院ベンチャーラボラトリー
1998	*デザイン経営工学科		*先端ファイプロ科学専攻	
1999				*ショウジョウバエ遺伝資源センター
2001				*アドミッションセンター *機器分析センター
2002			*デザイン経営工学専攻	*インキュベーション施設
2003				*繊維学部附属生物資源フィールド 科学教育研究センター *総合情報処理センター
2004			*建築設計学専攻	*情報科学センター
2005				*インキュベーションセンター

2006年4月には大学院と一体化した教育研究を行うため、従来の2学部を再編統合して工芸科学部を新設。さらに、2010年4月には、大学院工芸科学研究科にバイオベースマテリアル学専攻(独立専攻)の博士前期課程、2012年4月には同専攻の博士後期課程を設置した。

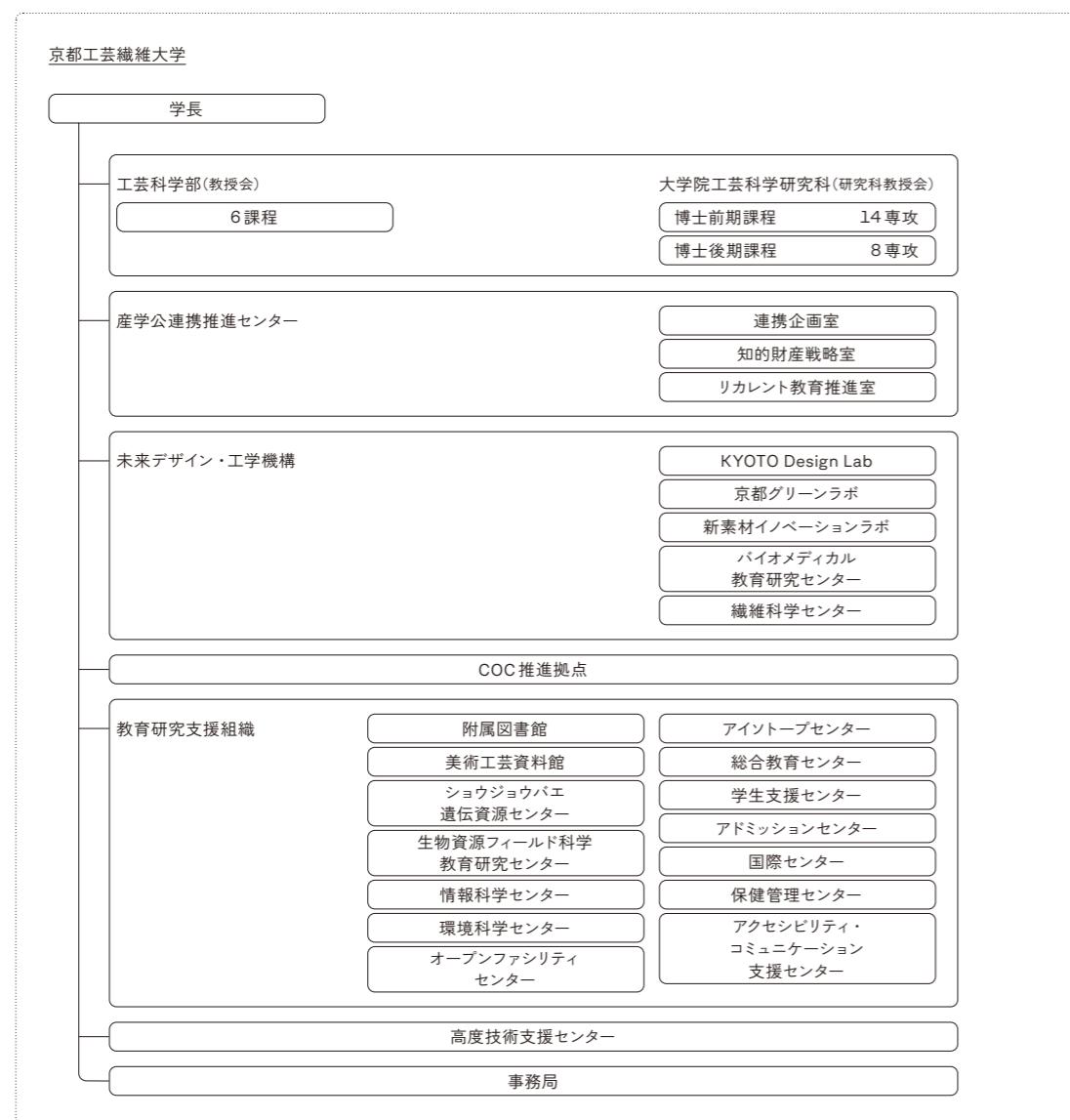
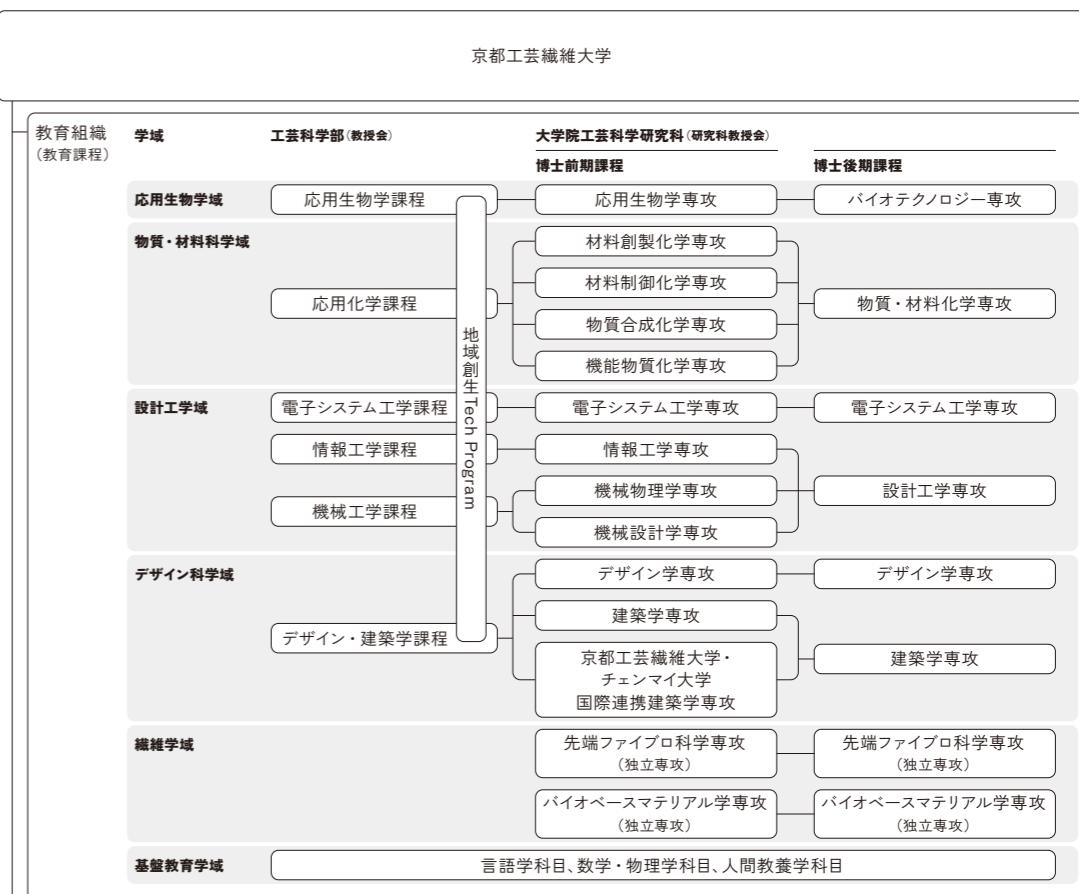
2017年4月には、グローバル人材の育成に資するため、タイのチェンマイ大学と共同で、ジョイント・ディグリー・プログラムである京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を博士前期課程に設置した。

年号	学部	大学院	教育研究センター/附属施設
2006	工芸科学部	工芸科学研究科 (博士前期課程) *応用生物学課程 *生体分子工学課程 *高分子機能工学課程 *物質工学課程 *電子システム工学課程 *情報工学課程 *機械システム工学課程 *デザイン経営工学課程 *造形工学課程 *先端科学技術課程 (博士後期課程) *生命物質科学専攻 *設計工学専攻 *造形科学専攻 *先端ファイプロ科学専攻	*繊維科学センター *ものづくり教育研究支援センター *生物資源フィールド科学 教育研究センター
2009			*創造連携センター *ベンチャーラボラトリー *知的財産センター
2010			(博士前期課程) *昆虫バイオメディカル 教育研究センター *伝統みらい教育研究センター
2011			*アクトープセンター
2012			(博士後期課程) *バイオベースマテリアル学専攻
2014			(博士前期課程) *生体分子応用化学課程 *デザイン・建築学課程 (博士後期課程) *デザイン学専攻 *建築学専攻
2015			(博士前期課程) *機械工学課程 (博士後期課程) *バイオテクノロジー専攻 *物質・材料化学専攻 *電子システム工学専攻
2017			(博士前期課程) *京都工芸繊維大学・チェンマイ 大学国際連携建築学専攻 *昆虫先端研究推進拠点
2018			(博士前期課程) *デザイン学専攻 *デザイン・建築学課程 *デザイン主導未来工学センター *産学公連携推進センター *グリーンイノベーションラボ *新素材イノベーションラボ
2021			*オープンファシリティセンター
2022			*未来デザイン・工学機構 *京都グリーンラボ *バイオメディカル 教育研究センター *ショウジョウバエ遺伝資源センター *生物資源フィールド科学 教育研究センター

管理運営組織



教育研究組織

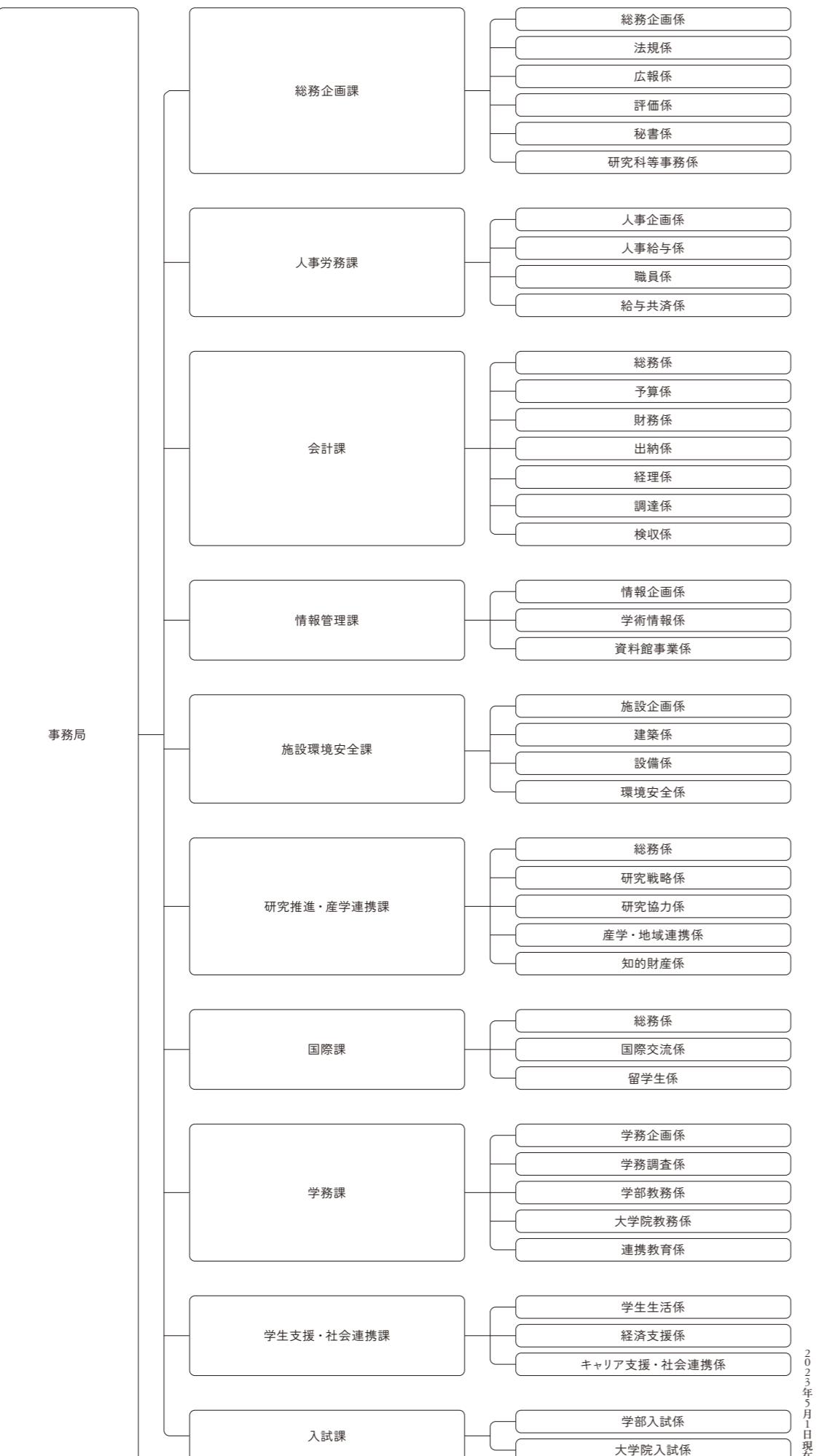


2023年5月1日現在



2023年5月1日現在

事務組織



学域説明

応用生物学域

21世紀はライフサイエンスの時代と言われている。高齢化、ストレスなどにより増えた癌、脳疾病、アレルギーといった病気の解明・地球環境保全の観点からも、バイオエネルギーの開発、化学物質に依存しない生物農薬、安全な食品の開発などが課題になっている。このような背景のもと、本学域ではこれらの課題を解決できる知識、技能、判断力を備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

デザイン科学域

現代社会は、資源やエネルギーの循環、既存社会・既存空間の再生、多様性を受け入れる社会の構築といった新たな諸問題に直面しており、持続可能な未来社会を実現すべく、広い概念としての「デザイン」の力がこれまで以上に求められている。本学域では、歴史と先端、ローカルとグローバルが同居する京都という歴史的都市において、こうした社会情勢を踏まえて「デザイン」を学び、それを実践へと活かす活動を行う。デザイン学と建築学の2つの専門から、未来社会を新たな方法論で創造すること、あるいは新たにモノや建築物を創り出すための技術に加え、既存の建築や都市の再生を目指す。

物質・材料科学域

今日、汎用性の高い身近な物質や材料、最先端科学を支える物質や材料、エネルギーの生産・貯蔵・輸送を担う物質や材料、環境に優しい物質や材料、そして生体分子など生命と関わりを持つ物質や材料の革新が、物質科学、材料科学さらには生命科学の発展に必要不可欠なものとなっている。そして、それらの科学領域が相互に結びついて、私たちの社会生活を支えるナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境テクノロジーが発展している。このような背景のもと、本学域では、先端の科学技術や物質・材料について広い視野を持ち、次世代の物質・材料の探究・開発ができる人材の育成を目指す。

繊維学域

現在、繊維は、衣料分野はもとより、医療、繊維複合材料として自動車、建築、航空機、さらにはセンサー機能を備えたAIテキスタイルなど広範囲な産業分野で使われている。また、地球環境に配慮したサステナブルな社会で高分子材料を利用していく新しい暮らし方に対応した機能特性も求められている。本学域は、このような多様性のある社会に対応するために、博士前期・後期課程に先端ファイブロ科学専攻とバイオベースマテリアル学専攻を設置し、基礎力と応用力をもって、繊維を中心とした広範な学術分野を総合的に理解できる人材を育成する。本学域は、海外の繊維系大学とともに運営する国際先端テキスタイル学コースや、米国、アジア地域との人的交流を通して、京都から世界を視野に入れて活躍できる人材を育成する。

設計工学域

本学域では、工学的新価値を継続的に創造し、社会に役立つ事物を具現化するとともに安全で快適な環境を実現する高度専門技術者や研究者の育成を目指す。具体的には、体系化された教育プログラムを通じて、数学や物理学等の基礎理論に基づく専門知識(電子システム工学、情報工学、機械工学)を習得するとともに、分野を超えた異なる視点から種々の着想を統合する力を育む。同時に、豊かな想像力から発して新しい製品やシステムを自ら思い描き、それを具現化する行動力と、多様性の受容および柔軟なコミュニケーションを通じた世界変化への洞察力を育成する。

基盤教育学域

工科系の高度な専門知識を獲得し、国際化に対応していく上で不可欠な数学・物理学の基礎的な知識や論理的思考力、および言語文化から経済・法律に至る幅広い教養と高度な言語運用能力、そして人間の心身の科学的な認識や理解といったさまざまな角度からの知の基盤作りを担当するのが基盤教育学域である。数学、物理学、情報学、言語学、人文・社会科学、教育学、スポーツ科学等の多様な分野の専門教員が、学部では、言語教育科目、人間教養科目および専門基礎科目を通して基礎力を養成し、大学院博士前期・後期課程では、専攻共通科目の講義や少人数のセミナーを通して、数理科学分野の発展的知識や人文・社会科学の幅広い知識の獲得、および言語運用能力のさらなる向上を図っている。

工芸科学部

工芸科学部は、本学の理念に基づき、幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力、リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（TECH LEADER）を養成することを目的として設置されている。この目的に則り、学部各課程では、それぞれの専門分野に応じて、教育目標を定め、人材育成を行っている。4学域6課程で構成され、学部共通プログラムとして「地域創生Tech Program」を設けている。

応用生物学域	応用生物学課程	生物学と生物化学を基礎として生命現象を研究し、生命、生物資源、グローバルな環境に関わる重要課題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる人材の育成を目指す。
物質・材料科学域	応用化学課程	物質や材料の多様化や高機能化を踏まえ、物質、材料、生命現象に関わる生体関連物質の成り立ちから応用までを俯瞰でき、基礎から応用まで幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身につけた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材の育成を目指す。
設計工学域	電子システム工学課程	スマートフォンや生活家電など、日常生活にとって欠かせない存在となっている電子システムの基礎から応用までに関する教育と、最先端の研究を通じて、電子機器、自動車、ロボット、電力などの基幹産業でリーダーとなり活躍できる人材の育成を目指す。
	情報工学課程	製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支えるICT分野でリーダーシップをとって活躍する人材およびICTを活用したシステムの開発やサービスの創出・提供によって豊かな情報社会の構築に貢献する人材の育成を目指す。
	機械工学課程	人と地球にやさしい社会の実現に向け、最先端の科学・技術を用いて、新しい機械の開発やシステムの構築ができる人材の育成を目指す。
デザイン科学域	デザイン・建築学課程	歴史と先端、地域性と国際性、芸術と科学が同居する京都という地において、デザイン学と建築学を一つの視野の下に捉え、自然・都市・建築環境、ものづくり、社会・経済構造、人間・社会関係といった多様な社会問題に対しデザインによる解決ができる人材の育成を目指す。
地域創生 Tech Program		地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、課程の専門知識および技術をベースに、グローバルな視野で協働することができる素養を身につけ、さらにアントレプレナー（起業家）精神、知的財産に関する知識を修得する。

大学院における教育**工芸科学研究科**

大学院工芸科学研究科では、科学技術と人間とがより良く結びついた「人間的な科学技術」を探求し、新たな高度技術の開発とともに、新しい技術と人間・社会との関わりを含めた総合的な教育研究を行っている。また、全ての専攻で社会人の受け入れを行っている。

博士前期課程

応用生物学域	応用生物学専攻	生命現象の本質の解析、環境と健康の向上に寄与する最先端技術の開発を目指している。また、生物・化学・物理などの基礎知識だけでなく、生命と自然への豊かな感受性、さまざまな自然現象への深い関心、興味に根ざした探求心・観察力で、未だ解明されていない生命現象への飽くなき追求を目指す。
物質・材料科学域	材料創製化学専攻	実用レベルにおける世界水準の性能・機能を持つ革新的な材料創製を教育研究の中核課題に据え、有機・無機材料からハイブリッド材料にわたる広範な材料をさらに高次に集積化することにより、光学材料、光電子材料、分離材料、高温材料などにおける革新を目指す。
	材料制御化学専攻	高い機能を持った材料を開発するためには、目標を定めた系統的方法で有用な性質を探す必要がある。本専攻は、材料開発の中でそのような役割を担う専攻である。物質を材料として使えるものにする、極めて重要な段階を担っていると言える。
	物質合成化学専攻	原子・分子から高度な機能と性能を有する材料に向かうボトムアップのアプローチに基づいて、分子レベルの材料設計と精密合成、さらには構造変換や分子組織化に関わる教育研究を総合的に展開する。
	機能物質化学専攻	生命活動に関わる多様な生体関連物質の構造と機能を計測・解析し、その知見を基にして物質の機能性を制御し、さらには機能物質の創成と応用および先導的分析計測法の開発を指向する教育研究を実践する。
設計工学域	電子システム工学専攻	現代のキーテクノロジーであるエレクトロニクスや情報通信技術を修得するとともに、専門知識を活用し将来に向けた新しい技術開発を先導する能力、新しい技術を社会に適合させるための総合力を身につけた技術者・研究者を育成することを目的としている。
	情報工学専攻	情報、通信、ネットワーク、システム制御などの最新技術をハードとソフトの両面から理論と実践をバランスよく修得し、専門分野での研究・開発技術者として活躍できる能力を身につけることを目標とした教育・研究を行っている。

機械物理学専攻 热力学、流体力学、材料力学、機械力学のいわゆる4力学を基礎としており、主として力学的な視点からさまざまな物理現象の本質の解明を目指している。さらに、その過程で得られた知見を実際の「ものづくり」にフィードバックすることにより、旧来の限界を超える製品開発や解析手法の開発のようなブレークスルーを実現できる「探究的アプローチによる新たな価値創造」を可能とする機械技術者・研究者の育成を目指す。

機械設計学専攻 機械工学のみならず幅広い先端技術分野に精通するとともに、それらの横断的利用により新たな価値創造に取り組める能力を有し、国際的に活躍できる機械技術者・研究者を養成するための教育・研究を行っている。

デザイン科学域 **デザイン学専攻** 新たな時代におけるデザインの役割・機能をソーシャルインテラクションデザインと定義し、モノの造形に留まらず、新たなサービスの創造と社会実装を行える人材の育成を目指している。このソーシャルインテラクションデザインの能力を涵養するために、デザイン系、テクノロジー系、マネジメント系、キュレーション系といった4系列の専門教育科目と研究分野を構成し、それらを有機的に統合するPBL系実習・演習科目を、産業界、自治体、海外研究機関との連携によって設置している。

建築学専攻 地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。建築学専攻ではこれを〈KYOTO デザイン〉と銘打って教育、研究、実務を行い、地域と歴史に根ざすとともに、国際的な競争力のある建築家や建築技術者、都市プランナー、修復建築家等の高度な都市・建築専門家を育成している。

**京都工芸繊維大学・
チェンマイ大学
国際連携
建築学専攻** タイのチェンマイ大学と連携し、建築学、特に建築設計学と都市・建築再生学を中心とした分野において、共同で教育プログラムを構築し、修了時には共同で単一の学位を授与するジョイント・ディグリー・プログラムとして設置している。

繊維学域 **先端ファイプロ
科学専攻** 専攻名のファイプロは、「ファイバー状の」という意味の連結語で、科学と連結した「ファイプロ科学」はテキスタイル材料およびその応用分野を研究対象としている。本専攻では、テキスタイルサイエンス・エンジニアリングを学び、人間中心の視点から新しい材料設計や感性を取り入れたテキスタイル製品評価、さらには環境との調和を考える繊維加工や京都の伝統産業で培われた技術から学ぶ新しいテキスタイル製品の創成など、応用力を身につけた人材育成を目標としている。

**バイオベース
マテリアル学専攻** 環境調和型バイオベースマテリアル(BBM)に関する新しい材料科学・工学を展開できるような人材の養成を目標としている。BBMの研究や開発には生物工学、有機化学、高分子化学、高分子材料学、高分子物性学、物理化学などの分野に加え、広範な科学分野を総合的に理解できる人材が求められている。このような分野の教育・研究を通して、BBMの研究や開発に将来携わり、もって、持続可能な循環型社会の構築に資する人材の育成を目指す。

博士後期課程

応用生物学域 **バイオテクノロジー専攻** 昆虫、哺乳動物、植物および微生物における生命現象について、分子、細胞、生物個体から生態系に至るマルチレベルな生命科学教育に重点を置き、人類が直面している諸問題にバイオテクノロジーを駆使して果敢に取り組むことができる研究者・技術者を育成することを目指す。

物質・材料科学域 **物質・材料化学専攻** バイオインスパイアード化学(生体機能への化学的アプローチ)、機能性分子・ポリマー・ナノマテリアルの精密な分子設計と合成(モレキュラーデザイン)、ソフトマテリアル、フォトエレクトロニクスなどの諸領域において教育研究を展開し、次代を担う革新的な物質・材料の開拓と創製において先導的な役割を果たす人材の育成を目指す。

設計工学域 **電子システム工学専攻** 電子システムを構築するためのさまざまな要素技術、設計・解析理論、システム技術を中心とした教育研究を行っており、回路、システム、電磁波、光、信号処理、通信、デバイス、材料、プラズマの領域をカバーしている。エネルギー・環境問題の解決を目指すグリーンイノベーションをはじめ、これから社会が求めている研究開発を、電子システム工学の専門的知識を基に実践できる人材の育成を目指す。

設計工学専攻 ものづくりの設計・製作・評価過程の全般を見通しつつ、どの過程をもこなせ、さらに、製作しようとするものが、いつどこでどんな風に役立つかを設計過程において明示できる高度専門技術者・研究者を育成する。

デザイン科学域 **デザイン学専攻** デザイン学領域では、プロダクト、グラフィック、インテリア等に関わる専門的デザイン能力をベースにしながら、社会、経済、技術環境の変化といった広範な枠組みにおけるニーズ発見と、その革新的ソリューションの創造を目指す。キュレーション領域では、美術、デザインなどについて作品分析と文献資料の読解を通して歴史的・理論的な価値づけを行なながら論文を作成する能力や企画、編集、展示、発信といったデザイン力を育成することを目指す。

建築学専攻 地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。本専攻ではこれを〈KYOTO デザイン〉と銘打って教育、研究、実務を行い、地域と歴史に根ざすとともに国際的な競争力のある高度な都市・建築専門家および高い専門性を持つ自立した研究者を育成している。

繊維学域 **先端ファイプロ
科学専攻** 「ファイバー状の」材料の利点を活かし、人間中心の視点から、環境に配慮した新しい材料設計や製品設計ができ、かつ未来に向かって自らの考えで国際的研究へのアプローチができる応用力を身につけた高度技術者・研究者の育成を目指す。

**バイオベース
マテリアル学専攻** 環境調和型バイオベースマテリアル(BBM)に関する新しい材料科学・工学を高度に発展させることができる研究者・技術者の養成を目標としている。生物工学、有機化学、高分子化学、高分子材料学、高分子物性学、物理化学などの科学分野の知識を融合させて分野横断的にBBMを探求する能力を育てる専門教育を行い、それを深化させる研究活動を推進している。BBM学の教育・研究を通じて、持続可能な循環型社会の構築を牽引できるような卓越した人材の育成を目指す。

研究戦略推進委員会

大学全体の研究力および産学連携機能の強化を図るために組織再編の一環として、2018年10月の組織改組により新たに設置された。教員組織である「学系」を総括し、研究力の向上や各学系が持つ強み分野を発展させた分野横断型研究チームの発足を促進することで、大型の外部資金獲得に向けた活動を推進する体制の整備を行う。

产学公連携推進センター

大学全体の研究力および産学連携機能の強化を図るために組織再編の一環として、2018年10月に設置された。これまで研究者個人と企業の関係になりがちであった共同研究の関係を、「組織」対「組織」の関係へと発展させ、研究プロジェクトの大型化、知的財産の保護・活用、リカレント教育の展開など、産学連携の拡充を図っている。

連携企画室

専任のURAを配置し、企業ニーズと研究シーズのマッチングによる共同研究等の産学連携を推進する。さらに、「組織」対「組織」の産学連携に対応していくため、産学公連携に係る学内外の窓口として、教員組織である「学系」および重点戦略組織である「未来デザイン・工学機構」に対するサポートを行う。



知的財産戦略室

専任のURAを中心に、知的財産の戦略、保護・管理・活用に関する企画、立案および実施を通して、本学で創出された研究成果や知的財産の社会への還元を目指す。



リカレント教育推進室

地域等のニーズに基づきリカレント教育の推進に関すること、リカレント教育プログラムに関すること、その他本学のリカレント教育の推進および支援に関することについて、企画、立案および実施を担う。企業との組織対組織の共同関係を活かして、実務家教員を配置した履修証明プログラム等を開設している。



未来デザイン・工学機構

本機構は、2050年を見据え、持続可能な未来の望ましい社会像を結像し、日本を牽引するため、「複数のありうる社会像 Possible Futures」を提示し、本学として「何が今、大学に問われていて、何をなすべきか」というパーソナリティを示す。そして歴史と文化に培われた京都思考に基づく、京都・日本に生きる「あらゆるいのち」のウェル・ビーイングを実現する。

KYOTO Design Lab

本学がデザインと建築を柱とする領域横断型の教育研究拠点として設立した、共同研究と実践のためのプラットフォームである。2014年の発足以来、「Innovation by Design」を掲げ、社会的課題の発見と解決を行っている。



京都グリーンラボ

現代社会は、気候変動や感染症、人口減少など、さまざまな危機に晒されている。本ラボでは、電子システム・機械・情報の近領域融合研究を推進し、モビリティ、マニュファクチャリング、インフラ等の分野において、社会の低炭素化と持続可能性維持のためのグリーンなデジタル・トランسفォーメーションを牽引する。



新素材イノベーションラボ

従来の材料では達成できない物性間のトレードオフを解消できる革新的高分子・複合新素材の創出が求められている。本ラボでは「材料の階層を超えた機能や性能の発現」とともに「人の階層を超えた異分野交流」を包含した「超階層ネットワーク」による次世代の新素材研究開発の拠点構築を推進している。



バイオメディカル教育研究センター

最先端の生命科学の研究技術を活用し、1)ヒトの増殖因子をはじめとする有用タンパク質や生体素材の生産など再生医療に貢献する研究、2)ヒトの病気や老化の原因となる遺伝子を同定・解析し、病気や老化のメカニズム解明に寄与する研究、ならびに治療薬の探索、3)哺乳類などの生体や培養細胞を用いた大学間連携および産学連携研究を推進している。



繊維科学センター

本学の創設時から蓄積してきた繊維科学・技術や京都の文化とデザインを基盤に、次代に向けて順次リニューアルを進めている。産業界に向け、信州大学と連携した新たな繊維リカレント教育の実施、全世界的に点在する本学の協定校の学生と行うサマースクールの開講や情報発信と企業との連携の場となる講演会および展示会などを通じて、独自性の高い拠点形成に発展させる活動を推進している(写真: 繊維延伸加熱・巻き取り機)。



COC推進拠点

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択を契機に、福知山キャンパスを拠点に、京都府の中で特に人口流出が進む京都府(府北部・中部地域)を中心として、府内の国公私立大学や高等専門学校、自治体、企業等と連携しながら、京都府全体の地域創生を担う人材育成に取り組んでいる。



附属図書館

約42万冊の図書、約5,600種の雑誌を所蔵して利用に供するとともに、開放型学習エリア「グローバルコモンズ」を設置し、「知への探検」と「知と遊ぶ」ための基点として、大学の教育と研究を支えている。また貴重な所蔵資料を紹介する企画展示を随時開催し、魅力ある情報を学内外に発信している。



美術工芸資料館

本学の前身校が開校した20世紀初頭以降に購入し、実際に使用した教育資料を収蔵品の核としている。その中には、ロートレックやクリムトのポスター、アール・ヌーヴォー期の陶器、ティファニーのガラス器など貴重な美術作品も含まれており、テーマを決めてそれらを展示公開している。



ショウジョウバエ遺伝資源センター

世界最大規模の約30,000種類のショウジョウバエ系統を保有し、国際的ストックセンターとして研究コミュニティに貢献する。中でも海外機関と共同で開発するヒト化ショウジョウバエはヒト遺伝子を自由に発現できるリソースであり、希少未診断疾患の病因解明など生物種の枠を超えた生命科学の進展に寄与する。



生物資源フィールド科学教育研究センター

1992年の開設以来、資源昆虫学・資源植物学・バイオ資源学の3つの教育研究分野で構成され、本学の「農学士」育成に必要不可欠な教育を担当している。資源生物生産システムや病害虫防除・管理法について、学内外との連携研究も踏まえ、生物資源利用の持続可能性を科学的に探究する能力とセンスを備えた人材の育成を目指している。



情報科学センター

情報基盤計算機システムと基幹情報ネットワークを中心とした、学内の情報通信技術の基盤を担う。各種基盤システムの開発・管理・運用および保守はもちろんのこと、教育支援、情報通信技術の提供による研究支援なども行っている。また、担当教員が最先端の研究を遂行し、研究指導を行っている。



環境科学センター

大学周辺地域のみならず、地球規模の環境問題にも対応すべく幅広い環境教育・研究を推進している。また、学内の構内排水、廃棄物の適正管理を実施するとともに、環境安全マネジメントシステムを構築・運用し、環境負荷の低減と「環境安全マインド」をもった人材の育成に寄与している。



オープンファシリティセンター

コアファシリティ化した共用設備群を一元管理する研究基盤設備統括部局として、教育研究の内容に合わせ、バイオユニット、機器分析ユニット、マテリアルユニット、クリーンルームユニット、ものづくりユニット、デザインファクトリーユニット、電波暗室ユニット、電力ルータユニットおよび表面解析ユニットの9ユニットで運営している。分野の枠を超えた先導的研究や学際・融合的研究等を推進し、本学の特色ある研究の基盤形成に寄与している。



アイソトープセンター

非密封放射性同位元素をトレーサーとして利用し、生物・理工学の幅広い分野の教育研究支援のため、1987年に学内共同利用施設として放射性同位元素実験室を設置し、2011年にアイソトープセンターに改称した。 ^{3}H 、 ^{14}C 、 ^{32}P 、 ^{33}P 、 ^{35}S 、 ^{45}Ca 、 ^{59}Fe 、 ^{125}I の8核種が使用可能である。



総合教育センター

教育の質保証を担保するため、教育実態および教育成果の調査・分析、評価を行い、教育課程の編成など、教育全般の企画および立案を行っている。加えて、他大学との教育連携、小中高大連携教育等の事業も積極的に行っている。



学生支援センター

授業料免除や奨学金等の経済支援、課外活動やアルバイト等学生生活の支援、インターンシップや就職相談等の就職・キャリア支援、障害学生支援等、各種事業の企画・運営を通じて学生が主体的に学習できる環境の整備をするとともに、学生支援の内容を多様な手段で検証することで、学生生活の改善・向上を目的としている。



アドミッションセンター

本学のアドミッションポリシーに沿った優秀な学生を継続的に確保することを目的として、入学者選抜の企画、立案および円滑な実施、ならびに入学者選抜結果の調査、分析、評価およびその方法の改善を行っている。また、高校から大学へのスムーズな移行を図るため、受験生や保護者、高等学校等からの入試や大学教育に関する相談への対応、入試に関する広報活動、ダビンチ入試（総合型選抜）合格者に対する高大接続教育を行っている。



国際センター

本学の国際化および国際交流の推進を担うことを目的として組織された。特に国際交流協定校を通じた学生交流の活性化、海外インターンシップ等、「国際的に活躍できる高度専門技術者（TECH LEADER）」を養成するための仕組みづくりを行うとともに、教員の海外派遣や研究者の招聘等、研究面での国際化を促進することにより、教育研究環境をグローバルな水準へ押し上げる取り組みを展開している。



保健管理センター

医師および看護師が常駐し、学生と教職員の心身の健康維持・増進を図るため、健康相談、診察および不慮の疾病やケガに対する応急処置などの業務を行い、必要に応じ市中の医療機関への紹介も行っている。また、法律の定める定期健康診断やX線・RI・組換えDNA等取扱者の特殊健康診断を行っている。



アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター

発達障害を専門とする教員、精神科医、カウンセラーが配置されており、対人関係や学業、性格の悩み、不安、抑うつ、緊張、パニック、発達障害などの「こころの問題」を抱える学生や教職員の修学上・就業上の相談窓口としての機能を有する他、これらの障害等のある学生や教職員と大学との間に立ち、両者の連絡調整機能としての役割も果たしている。



高度技術支援センター

生物・総括技術、分析・測定、システム・ネットワーク、ものづくり・デザインの4グループ8系で構成され、センター・課程・専攻等への技術支援やプロジェクト参画による研究・技術支援を行っている。これらの支援業務に加えて、技術の継承、レベルアップおよびセンター独自の技術開発も行っている。



KIT男女共同参画推進センター

KIT男女共同参画推進センターは2012年に設置され、研究と生活の両立を支援する研究支援員制度やセミナーの開催、女性研究者の交流促進、情報発信等の活動を行っている。また、育児・介護に関する情報提供や理系女子のキャリア形成、裾野拡大にも取り組み、支援環境の一層の充実を図っている。



歴代学長/役職員等

• 歴代学長

中澤 良夫	(1949年5月-1962年5月)
大倉 三郎	(1962年6月-1966年5月)
藤本 武助	(1966年6月-1972年5月)
増尾 富士雄	(1972年6月-1978年5月)

• 役員等

学長	森迫 清貴
理事・副学長	吉本 昌広(大学戦略(KYOTO AGORA)・研究・広報担当)
理事・副学長	寶珍 輝尚(教育・情報・地域連携担当)
理事・副学長	PEZZOTTI Giuseppe(医工連携研究担当)
理事・事務局長	真下 宗(総務・人事労務・財務・施設担当)
理事(非常勤)	乾 賢一(研究倫理・コンプライアンス担当)

• 顧問等

学長補佐	門 勇一(工学研究連携)
顧問	清水 潔(元文部科学省事務次官)
顧問	日高 一樹(知的財産)

• 経営協議会委員

学長	森迫 清貴
理事	吉本 昌広
理事	寶珍 輝尚
理事	PEZZOTTI Giuseppe
理事	真下 宗
学外委員	京藤 倫久(株式会社 Future Materialz 代表取締役 社長)
学外委員	鈴木 順也(NISSHA 株式会社 代表取締役社長兼最高経営責任者)
学外委員	錦織 隆(株式会社 日進製作所 代表取締役 会長)
学外委員	西本 清一(公益財團法人 京都高度技術研究所 理事長)
学外委員	古川 博規(京都府副知事)
学外委員	堺場 厚(株式会社 堀場製作所 代表取締役会長兼グループCEO)

• 教育研究評議会評議員

学長	森迫 清貴
理事・副学長・	吉本 昌広
産学公連携推進センター長・	
未来デザイン・工学機構長	
理事・副学長・	寶珍 輝尚
産学公連携推進センター長・	
副センター長・	
COC推進拠点長	
理事・副学長	PEZZOTTI Giuseppe
理事	真下 宗
理事	乾 賢一
副学長・	堺場 厚
工芸科学研究科長	
副学長・	増田 新
産学公連携推進センター長	

• 学長選考・監査会議委員

経営協議会委員	位高 光司
経営協議会委員	奥村 次徳
経営協議会委員	京藤 倫久
経営協議会委員	錦織 隆

• 部局長・施設長等

工芸科学部長	堀内 淳一
大学院工芸科学研究科長	堀内 淳一
応用生物学域長	宮田 清司
物質・材料科学域長	清水 正毅
設計工学域長	森田 辰郎
デザイン科学域長	清水 重敦
繊維学域長	佐々木 園
基盤教育学域長	来田 宣幸
応用生物学系長	片岡 孝夫
材料化学系長	則末 智久
分子化学系長	小堀 哲生
電気電子工学系長	小林 和淑
機械工学系長	高木 知弘
情報工学・人間科学系長	水野 修
繊維学系長	奥林 里子

• 事務局

事務局長	真下 宗
総務企画課長	森 宏二
人事労務課長	岡田 忠久
会計課長	山崎 裕久

• 役員等数

学長	理事(副学長)	理事(非常勤)	監事(非常勤)	理事・事務局長	副学長	計
1	3	1	2	1	4	12

• 事務職員数

区分	局長・管理職 ^[*1]	副課長・専門員	係長・専門職	主任	係員	計
事務局	11	11	44	21	37	124

[*1] 管理職とは、課長をいう。

• 技術職員数

区分	技術専門員	技術専門職員	技術員	計
高度技術支援センター	3	10	7	20

• 看護師数

区分	看護師	計
保健管理センター	1	1

• 教員数

区分	教授	准教授	講師	助教	助手	計
応用生物学系	10	9	1	3	0	22
材料化学系	12	11	1	7	0	31
分子化学系	11	12	1	7	0	31
電気電子工学系	11	9	0	9	0	29
機械工学系	11	8	0	7	0	26
情報工学・人間科学系	9	11	0	6	0	26
繊維学系	7	8	0	3	0	18
デザイン・建築学系	11	8	0	10	1	29
基盤科学系	18	8	0	3	1	30
未来デザイン・工学機構	3	4	1	0	0	8
京都工芸繊維大学付	1	0	0	0	0	1
合計	104	88	4	55	2	253

学生数

現在、学部6課程、博士前期課程14専攻、博士後期課程8専攻を設置し、連続性および一貫性を踏まえた学部教育、大学院教育を展開している。

・工芸科学部 (2023年5月1日現在)

学域	課程	入学定員	編入学定員	3年次				計		
				1年次	2年次	3年次	4年次	男子	女子	合計
生命物質科学域 ^[*1]	高分子機能工学課程 ^[*2]			6	6	0	6			
	物質工学課程 ^[*2]			4	2	2	4			
応用生物学域	応用生物学課程	50	50	47	54	58	118	91	209	
物質・材料科学域	応用化学課程	169	182	167	176	200	545	180	725	
設計工学域	電子システム工学課程	61	61	60	64	75	239	21	260	
	情報工学課程	61	64	68	68	100	260	40	300	
	機械工学課程	86	92	87	88	130	359	38	397	
造形科学域 ^[*1]	デザイン・建築学課程 ^[*2]			5	1	4	5			
デザイン科学域	デザイン・建築学課程	156	158	158	172	221	333	376	709	
学部共通		50								
学部共通	先端科学技術課程(夜間主) ^[*2]			1	1	0	1			
合計		583	50	607	587	622	800	1,864	752	2,616
うち地域創生 Tech Program		30	15	12	16	11	35	19	54	

[*1] 2018年に学域を改組

[*2] 高分子機能工学課程、物質工学課程、造形科学域のデザイン・建築学課程、先端科学技術課程(夜間主)は改組により募集を停止した。

・博士前期課程 (2023年5月1日現在)

学域	専攻	入学定員	計			
			1年次	2年次	男子	女子
応用生物学域	応用生物学専攻	40	40	37	40	37
物質・材料科学域	材料創成化学専攻	33	31	33	50	14
	材料制御化学専攻	32	29	37	53	13
	物質合成化学専攻	33	37	40	54	23
	機能物質化学専攻	32	33	36	36	33
設計工学域	電子システム工学専攻	50	54	47	93	8
	情報工学専攻	46	51	47	88	10
	機械物理学専攻	37	38	37	71	4
	機械設計学専攻	30	33	31	59	5
デザイン科学域	デザイン学専攻	45	56	75	52	79
	建築学専攻	71	79	98	117	60
	京都工芸織維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	4	2	7	2	7
織維学域	先端ファイプロ科学専攻	35	41	46	63	24
	バイオベースマテリアル学専攻	22	26	28	39	15
合計		510	550	599	817	332
						1,149

・博士後期課程 (2023年5月1日現在)

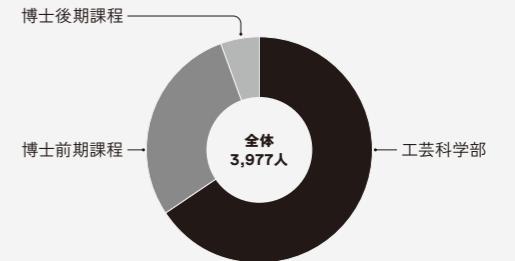
学域	専攻	入学定員	計		
			1年次	2年次	3年次
応用生物学域	バイオテクノロジー専攻	6	6	8	9
物質・材料科学域	物質・材料化学専攻	13	10	16	9
設計工学域	電子システム工学専攻	5	7	4	4
	設計工学専攻	10	10	8	14
造形科学域 ^[*1]	デザイン専攻 ^[*2]				4
	建築学専攻 ^[*2]				4
デザイン科学域	デザイン学専攻	5	2	9	17
	建築学専攻	7	3	6	18
織維学域	先端ファイプロ科学専攻	8	7	8	12
	バイオベースマテリアル学専攻	6	5	7	5
合計		60	50	66	96
					146
					66
					212

[*1] 2018年に学域を改組

[*2] 造形科学域のデザイン学専攻、建築学専攻は改組により募集を停止した。

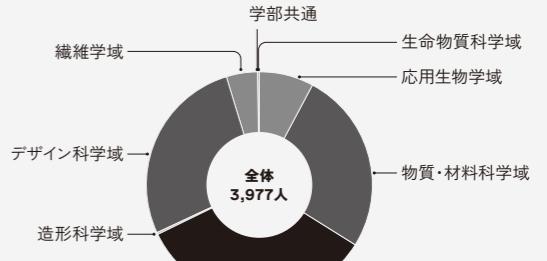
・大学全体 (2023年5月1日現在)

区分	学生数	比率	区別別学生数	
			博士後期課程	博士前期課程
工芸科学部	2,616	65.8%	3,977	3,977
博士前期課程	1,149	28.9%		
博士後期課程	212	5.3%		
合計	3,977			



学域別学生数

学域	合計	比率	学域別学生数	
			生命物質科学域 ^[*1]	応用生物学域
生命物質科学域 ^[*1]	10	0.3%	10	309
応用生物学域	309	7.8%		
物質・材料科学域	1,036	26.0%		
設計工学域	1,342	33.7%		
造形科学域 ^[*1]	13	0.3%		
デザイン科学域	1,081	27.2%		
織維学域	185	4.7%		
学部共通	1	0.1%		
合計	3,977			



[*1] 2018年に学域を改組

入学者選抜実施状況

・新1年次生 (2023年5月1日現在)

選抜区分		募集人員	出願者数	出願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	うち追加合格者数	実質倍率	入学者数
一般選抜	前期日程 ^[*1]	334	1,152	3.4	1,040	3.1	348	1	3.0	347
	後期日程	74	921	12.4	504	6.8	124	7	4.1	84
	合計	408	2,073	5.1	1,544	3.8	472	8	3.3	431
ダビンチ入試(総合型選抜) 一般プログラム	一般	53	308	5.8	308	5.8	53		5.8	53
	グローバル	10	23	2.3	23	2.3	10		2.3	10
	合計	63	331	5.3	331	5.3	63		5.3	63
地域創生 Tech Program 一般 ^[*2]	一般	13	15	1.2	14	1.1	4		3.5	4
	地域 ^[*2]	11	8	0.7	8	0.7	7		1.1	7
	社会人	若干名	0							
	合計	15	23	1.5	22	1.5	11		2.0	11
	合計	78	354	4.5	353	4.5	74		4.8	74
学校推薦型選抜	一般プログラム	90	417	4.6	417	4.6	91		4.6	91
	地域創生 Tech Program	7	8	1.1	8	1.1	4		2.0	4
	合計	97	425	4.4	425	4.4	95		4.5	95
私費外国人留学生入試	若干名	29			26		11		2.4	1
総計		583	2,881	4.9	2,348	4.0	652	8	3.6	601
国費外国人留学生										1
政府派遣留学生										5

[*1] 前期日程の合格者数及び入学者数には、地域創生 Tech Program の1名(応用化学課程)が含まれる。

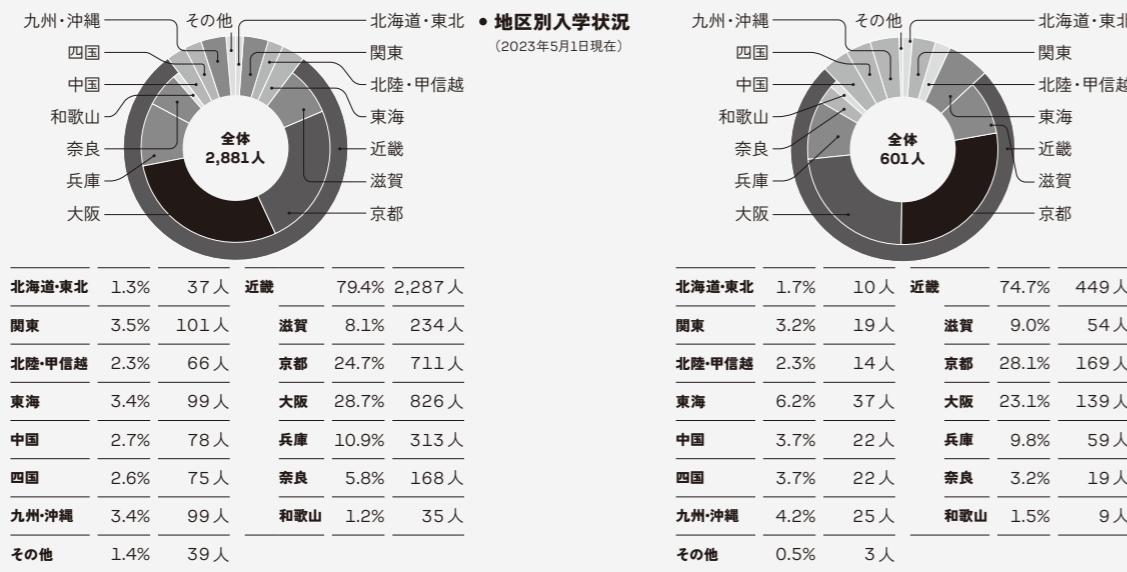
[*2] ダビンチ入試(総合型選抜)の地域創生 Tech Program では、デザイン・建築学課程を除き、【一般】と【地域】を合わせて募集する。

工芸科学部全体では【一般】と【地域】合わせて15名募集する。

・新3年次生 (2023年5月1日現在)

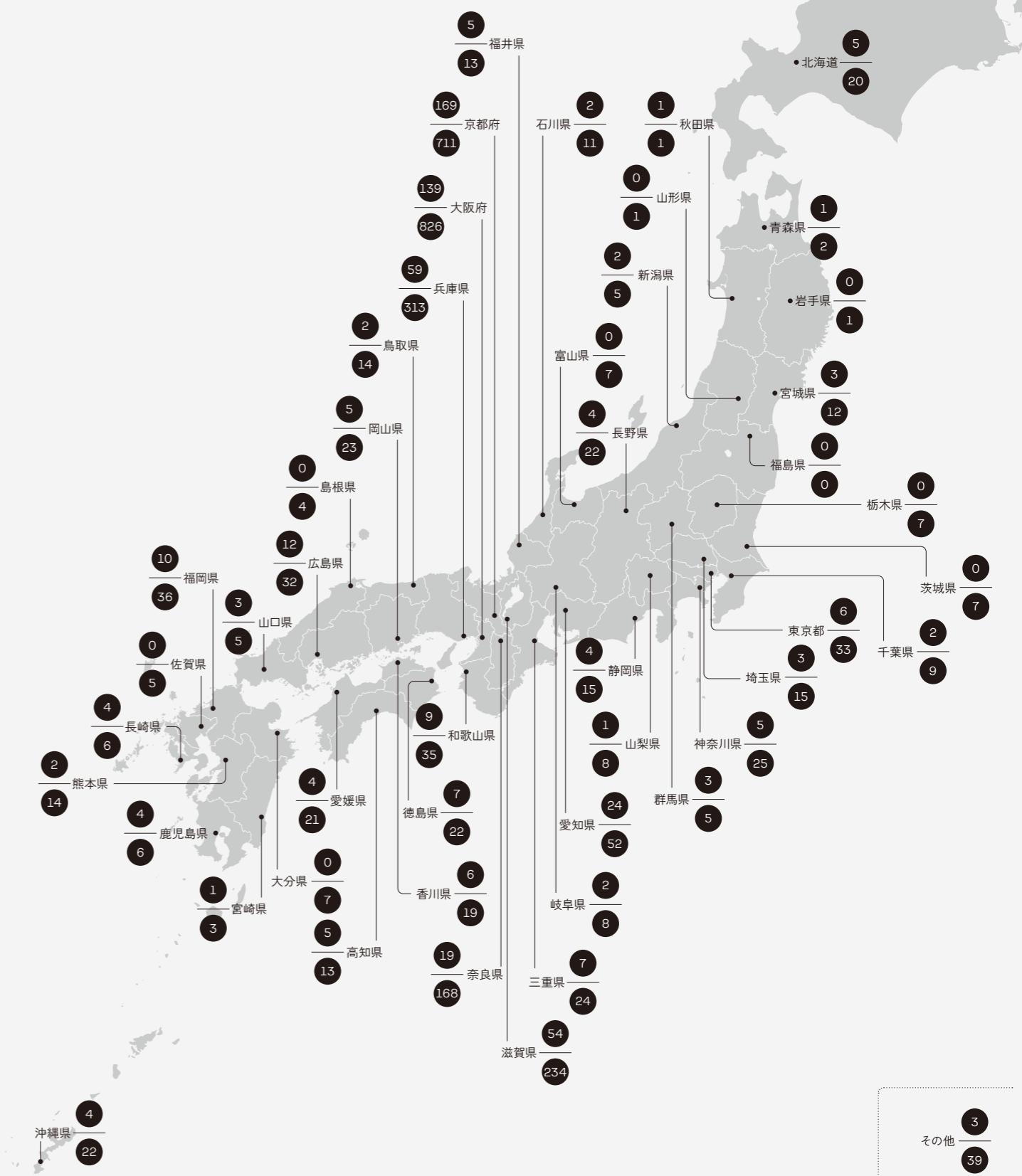
選抜区分		募集人員	出願者数	出願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	うち追加合格者数	実質倍率	入学者数
3年次 締入学試験	推薦選抜 一般プログラム	若干名	24		24		20		1.2	20
	地域創生 Tech Program	若干名	0							
	合計		24		24		20		1.2	20
一般選抜 一般プログラム	一般	45	172	3.8	131	2.9	39	4	3.4	28
	地域創生 Tech Program	5	4	0.8	2	0.4	0			
	合計	50	176	3.5	133	2.7	39	4	3.4	28
	合計	50	200	4.0	157	3.1	59		2.7	48
モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試	若干名	6			6		2		3.0	2

・地区別出願状況 (2023年5月1日現在)



・都道府県別 出願者数および 入学者数

(国費留学生、政府派遣留学生は含まない)
(2023年5月1日現在)



奨学生数/卒業生数

区分		昼間	夜間主	計
日本学生支援機構	給付	221	0	221
	1種	298	0	298
	2種	277	0	277
その他の奨学生		46	0	46
合計		842	0	842

区分		博士前期課程	博士後期課程	計
日本学生支援機構	1種	272	21	293
	2種	23	0	23
その他の奨学生		19	2	21
京都工芸織維大学基金奨学生(本学独自の奨学生)		2	2	
合計		314	25	339

• 奨学生数(学部)
(2023年3月1日現在)

基礎学力と実践的応用力を身につけた本学の卒業生は、社会の各分野で高く評価され、さまざまな産業分野の第一線で活躍している。

また、卒業生の約78%が大学院に進学している。

課程	2022年度 累計					
	男子	女子	計	男子	女子	合計
応用生物学課程	26	27	53	382	362	744
生体分子応用化学課程	0	1	1	145	63	208
高分子機能工学課程	1	0	1	532	106	638
物質工学課程	2	0	2	645	223	868
応用化学課程	118	47	165	235	100	335
電子システム工学課程	62	4	66	849	61	910
情報工学課程	56	9	65	753	111	864
機械工学課程	81	6	87	384	47	431
デザイン・経営工学課程	4	0	4	285	227	512
デザイン・建築学課程	84	70	154	407	380	787
先端科学技術課程(夜間主)	0	0	0	318	71	389
生体分子工学課程 ^[*1]			0	305	116	421
機械システム工学課程 ^[*2]			0	757	41	798
造形工学課程 ^[*1]			0	563	499	1,062
合計	434	164	598	6,560	2,407	8,967
うち地域創生 Tech Program	14	4	18	50	24	74

2006年の改組再編前の学部の卒業生数

[工芸学部]卒業生総数 19,641人
1988年の改組前の学科の卒業生は、機械工学科 1,000人、生産機械工学科 1,095人、電気工学科 1,009人、電子工学科 669人、色染工芸学科 1,340人、無機材料工学科 568人、工業化学科 911人、建築学科 483人、住環境学科 599人、意匠工芸学科 957人、建築工芸学科 823人、織維工芸学科 598人、窯業工芸学科 583人、計 10,635人。
2006年の改組前の学科の卒業生は、機械システム工学科 1,945人、電子情報工学科 2,528人、物質工学科 2,196人、造形工学科 2,337人、計 9,006人。

[織維学部]卒業生総数 8,479人

1988年の改組前の学科の卒業生は、応用生物学科 185人、蚕糸生物学科 367人、高分子学科 689人、織維工学科 724人、織維化学科 1,316人、養蚕学科 754人、製糸紡績学科 700人、計 4,735人。

2006年の改組前の学科の卒業生は、応用生物学科 1,283人、高分子学科 2,127人、デザイン・経営工学科 334人、計 3,744人。

修士および博士の学位授与数

• 大学院 工芸科学研究科 博士前期課程 (2022年度卒業生)	2022年度			累計			
	専攻	男子	女子	計	男子	女子	合計
応用生物学専攻	20	15	35	607	409	1,016	
材料創製化学専攻	25	7	32	196	47	243	
材料制御化学専攻	25	5	30	173	35	208	
物質合成化学専攻	17	12	29	162	45	207	
機能物質化学専攻	21	15	36	148	76	224	
電子システム工学専攻	49	3	52	693	44	737	
情報工学専攻	46	5	51	611	88	699	
機械物理学専攻	34	4	38	229	19	248	
機械設計学専攻	24	4	28	200	15	215	
デザイン学専攻	19	23	42	128	160	288	
建築学専攻	44	40	84	341	254	595	
京都工芸織維大学・チエンマイ大学	0	1	1	3	10	13	
国際連携建築学専攻							
先端ファイブロ科学専攻	24	4	28	686	161	847	
バイオベースマテリアル学専攻	9	6	15	149	55	204	
電子情報工学専攻 ^[*1]				0	887	51	938
高分子学専攻 ^[*1]				0	771	92	863
造形工学専攻 ^[*2]				0	705	354	1,059
デザイン科学専攻 ^[*2]				0	95	61	156
建築設計学専攻 ^[*2]				0	187	77	264
生体分子工学専攻 ^[*3]				0	191	74	265
高分子機能工学専攻 ^[*3]				0	292	46	338
物質工学専攻 ^[*3]				0	1,233	181	1,414
機械システム工学専攻 ^[*3]				0	1,142	43	1,185
デザイン・経営工学専攻 ^[*4]				0	193	82	275
合計	357	144	501	10,022	2,479	12,501	

[*1] 2006年の改組再編に伴い、電子情報工学専攻及び高分子学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

[*2] 2014年の改組再編に伴い、造形工学専攻、デザイン科学専攻及び建築設計学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

[*3] 2015年の改組再編に伴い、生体分子工学専攻、高分子機能工学専攻、物質工学専攻及び機械システム工学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

[*4] 2018年の改組再編に伴い、デザイン・経営工学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

• 大学院 工芸科学研究科 博士後期課程 (2022年度卒業生)	2022年度			累計			
	専攻	男子	女子	計	男子	女子	合計
バイオテクノロジー専攻	6	2	8	28	13	41	
物質・材料化学専攻	5	4	9	33	13	46	
電子システム工学専攻	5	0	5	15	1	16	
設計工学専攻	3	3	6	72	14	86	
デザイン学専攻	2	0	2	3	3	6	
建築学専攻	0	2	2	6	11	17	
先端ファイブロ科学専攻	2	7	9	158	71	229	
バイオベースマテリアル学専攻	2	1	3	22	9	31	
機能科学専攻 ^[*1]				0	167	65	232
材料科学専攻 ^[*1]				0	86	15	101
情報・生産科学専攻 ^[*1]				0	119	7	126
造形科学専攻 ^[*2]				0	27	20	47
生命物質科学専攻 ^[*3]				0	78	40	118
合計	25	19	44	814	282	1,096	
論文提出	1	0	1	185	26	211	

[*1] 2006年の改組再編に伴い、機能科学専攻、材料科学専攻及び情報・生産科学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

[*2] 2014年の改組再編に伴い、造形科学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

[*3] 2015年の改組再編に伴い、生命物質科学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

1988年の改組再編前の大学院の修了生数

[工芸学研究科]修了生総数 1,617人
1988年の改組前の学科の修了生は、機械工芸学専攻 37人、色染工芸学専攻 204人、窯業工芸学専攻 55人、生産機械工学専攻 226人、建築工芸学専攻 82人、意匠工芸学専攻 109人、電気工芸学専攻 150人、工業化学科 212人、機械工学専攻 150人、無機材料工学専攻 130人、電子工学専攻 98人、住環境学専攻

進路状況

・工芸科学部

(2022年度卒業生)

課程	就職										
	進学	建設	製造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員	教育	医療・福祉	その他の業種	その他 ^[*1]
応用生物学課程	43		3			1		1	1	2	2
生体分子応用化学課程	1										
高分子機能工学課程			1								
物質工学課程	1										1
応用化学課程	148		5	1	1	2	2				6
電子システム工学課程	55		4	3		1					1
情報工学課程	51		2	10				1	1		
機械工学課程	68		7			2				1	9
デザイン経営工学課程			1	1							2
デザイン・建築学課程	102	18	4	6	2	8		1		3	10
合計	469	18	27	21	3	14	2	2	2	8	32

・大学院

工芸科学研究科
博士前期課程

(2022年度卒業生)

課程	就職										
	進学	建設	製造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員	教育	医療・福祉	その他の業種	その他 ^[*1]
応用生物学専攻			21	2	1	3	2	1		2	3
材料創成化学専攻			26			2	1			2	1
材料制御化学専攻	3		22	2		1				2	
物質合成化学専攻	1		20		1	1			1	3	2
機能物質化学専攻	2		26			2	1		1	2	2
電子システム工学専攻	4		33	4	1	1					9
情報工学専攻	4		15	29	1	1					1
機械物理学専攻	2		27	6		2					1
機械設計学専攻			21	2		1	1			2	1
デザイン専攻		1	5	9	1	10				6	10
建築学専攻	1	56	1	2	1	4	6			4	9
京都工芸繊維大学・ チェンマイ大学 国際連携建築学専攻						1					
先端ファイプロ科学専攻	2		13	3		4		1	1		4
バイオベースマテリアル学専攻			10	1	2						2
合計	19	57	240	60	8	33	11	1	3	33	36

・大学院

工芸科学研究科
博士後期課程(2022年度卒業生/
単位取得退学者を含む)

課程	就職										
	進学	建設	製造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員	教育	医療・福祉	その他の業種	その他 ^[*1]
バイオテクノロジー専攻			1			1		3	2	2	
物質・材料化学専攻			3		1		1		2	2	
電子システム工学専攻	1	3			1				1		
設計工学専攻			3		3	1				1	
デザイン専攻					1		1				
建築学専攻							2				
先端ファイプロ科学専攻		2	1		3		2		4	1	
バイオベースマテリアル学専攻					3						
合計	0	1	12	1	0	13	1	9	2	10	3

[*1] 「その他」は進学希望者、就職希望者、研究生、進路未定、臨時労働者。

国際交流

京都発の先鋭的な国際的工科系大学として、これまでにない新しい発想や価値の創造の実現を目指す本学は、国際センターを中心に大学全体で世界の知的機関とのネットワーク構築を進めている。

特に2014年度からは文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業において、「OPEN-TECH INNOVATION ~世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想~」をテーマに、社会や産業のグローバル化を牽引する人材「TECH LEADER」の養成を目標としたさまざまな事業を展開し、理工系人材に求められる国際的リーダーシップ涵養のためのカリキュラム改革や、海外大学との教育連携のための教員海外派遣等により基盤整備を図ってきた。ジョイント・ディグリー/ダブル・ディグリー・プログラム、短期のサマースクールなどの国際教育プログラムの開設により、日本人学生の海外留学率および外国人留学生比率の飛躍的向上を進めている他、京都という立地を活かし、世界中の研究者や産業界等と交流するハブの形成を目指し、国際共同プロジェクト等を推進している。

・2022年度 スーパーグローバル 大学創成支援 事業の主な取り組み

教職員派遣事業の実施
教職員に対する英語研修の実施
職員に対するTOEIC試験実施
グローバルコモンズにおける多言語/多文化交流事業
外国人研究者等による講演会(OPEN TECHシンポジウム)の実施
グローバルインターンシップに対する支援
e-learningシステムや多読プログラムを利用した英語鍛え上げプログラムの実施
学部1・2年次生に対するTOEIC試験実施
英語スピーキングテストの実施
国際化モデル研究室の活動による留学生の受入および海外研究者招聘
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻(ジョイント・ディグリー・プログラム)の実施

・外国人研究者 受け入れ状況

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	7	9	7	7	5
特任研究員・非常勤研究員	2	0	0	0	0
国際訪問研究員	23	19	5	2	10
国際協力機構外国人受託研修員	8	7	0	0	4
合計	40	35	12	9	19

・外国人留学生数 (2023年5月1日現在)

学部	非正規生 (研究生・ 国際交流学生等)						非正規生 (研究生・ 国際交流学生等)					
	国・地域	国費	政派	私費	国・地域	国費	政派	私費	国・地域	国費	政派	私費
イギリス連合王国					3	3			タイ	3	4	7
イスラエル				1			1		台湾	2	1	3
イタリア				4	5	9			中国	18	2	58
イラン				1			1		ドイツ	1	2	3
インド	1		2	2		3	8		フィンランド	3	3	3
インドネシア	2		1	2		1	6		フランス	3	1	8
エジプト			5	1			6		米国	3		3
オーストラリア				1			1		ベトナム	17	3	20
オーストリア						1	1		ベルギー	2	2	
オランダ		</										

•国際交流協定
締結機関
(黒丸内の数字は
協定締結機関数を示す)
(2023年5月1日現在)

本学は、現在外国の96の大学・機関等と学術交流等の協定を締結し、教育研究に関する情報交換や教職員・学生の交流を行っている。
また、教育研究の交流を促進するため、海外の研究機関等への研究者および学生の派遣、ならびに海外の研究機関等からの
研究者、外国人教員、学生の受け入れを活発に行っている。

96 協定締結機関

29 國/地域



地域	国・地域名	協定締結機関	協定発効年
アジア	インド	インド工科大学グワハティ校	2015年
	カザフスタン	アルーフラビ・カザフ国立大学	2018年
		カザフ・ブリティッシュ工科大学	2019年
韓国	嶺南大学		2004年
	水原大学		2006年
	漢陽大学 工科大学		2010年
カンボジア	王立プノンペン大学		2019年
シンガポール	シンガポール国立大学工学部		2004年
	シンガポール国立大学 環境デザイン学部		2013年
	シンガポール工科デザイン大学		2016年
	マレーシア	クアラルンプール大学 マレーシア科学大学	2014年 2015年
タイ	マレーシア	マラヤ大学	2017年
	カンボジア	モンゴル科学技術大学	2013年
エジプト	エジプト	ヘルワン大学	2008年
欧州	イタリア	トリエステ大学 材料科学・工学イタリア大学 コンソーシアム	2002年 2010年
		RFXコンソーシアム トリノ工科大学 パヴィア大学 ヴェネツィア建築大学 ヴェローナ大学 バドヴァ大学 ベルガモ大学 ミラノ工科大学 マヒドン大学 スラナリー工科大学	2016年 2017年 2018年 2018年 2018年 2018年 2019年 2019年 2003年
台湾	台湾	東華大学 浙江理工大学 香港理工大学紡織衣服学院	1987年 2003年 2007年
	大同大学 国立陽明交通大学 国立台湾科技大学		2008年 2015年 2018年
中国	中国	東華大学 浙江理工大学 香港理工大学紡織衣服学院	1987年 2003年 2007年
	カント大学 ハノイ工科大学 ベトナム国立大学ホーチミン理科大学 ベトナム科学技術アカデミー化学研究所 ハノイ医科大学 ベトナム国立大学ホーチミン工科大学 国立医用材料研究所		2002年 2002年 2002年 2004年 2006年 2007年 2019年
ベトナム	ベトナム	リーズ大学 ロンドン芸術大学 ロンドン大学聖ジョージ校 グラスゴー美術大学 英国王立芸術学院 キングストン大学 ケンブリッジ大学 キャベンディッシュ研究所	1990年 2018年 2007年 2013年 2014年 2015年 2015年
	オーストリア	ウィーン工科大学	2012年

オランダ	デザインアカデミーアントホーフェン デルフト工科大学 建築学部 アーティズ芸術大学	2014年 2015年 2018年	
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 スイス・イタリア語圏大学 メンドリシオ建築アカデミー ジュネーブ造形芸術大学 ルツェルン応用科学芸術大学	2014年 2015年 2016年 2017年	
スウェーデン	ボロース大学	2020年	
スペイン	カタロニア工科大学 ESEIAAT	2002年	
チエコ	リベレツ工科大学	2016年	
デンマーク	デンマーク王立アカデミー建築学部 デンマーク王立アカデミー・デザイン学部	2012年 2016年	
ドイツ	シュツットガルト専門大学 アーヘン工科大学機械工学部 ユストゥス・リービッヒ大学ギーセン ケルン応用科学大学	2004年 2013年 2016年 2014年	
ハンガリー	ブダペスト工科経済大学	2015年	
フィンランド	LAB応用科学大学	2007年	
フランス	アールト大学 パリ・ラ・ヴィリエット国立建築大学 ヴェルサイユ国立建築大学 リール・ドゥーエー工科大学 ENSAIT (国立織維工芸工業高等学院) フランス国立高等研究院 ソルボンヌ大学 オルレアン大学 パリ大学 オートアルザス大学	2004年 1999年 2006年 2007年 2008年 2009年 2014年 2015年 2015年 2015年 2018年	
ベルギー	リエージュ大学	2017年	
中東	トルコ	ミマール・スィナン芸術大学 バムッカレ大学	2013年 2016年
北米	カナダ	マニトバ大学 マクドナルド大学 アクリソン大学 ノースカロライナ州立大学 テキサス大学アーリントン校 ワシントン大学工学部 ウィスコンシン大学マディソン校 物理学部 オーバーン大学 理数学部 アリゾナ州立大学	2015年 1987年 2003年 2014年 2014年 2015年 2016年 2019年
米国			

大学開放事業

本学では、年間を通じて、ユニークな公開講座や講演会、体験学習を実施し、多数の市民が参加している。

・開放事業 (2022年度実施分)

種別	イベント	実施部局
公開講座・講演	公開講座「緑の地球と共に生きる」	環境科学センター
	京都アカデミアフォーラム 高校生向け講座「京都で学ぶ」2022 「行動化学生態学 入門 化学の眼で見て考える生き物相互の関係性」	京都アカデミアフォーラム事務局
	履修証明プログラム「ヘリテージ・アーキテクト養成講座」	ヘリテージ・アーキテクト養成講座事務局
	公開講座「テキスタイルのサステナブルマネジメントとテクノロジー」	繊維科学センター
	社会人教育公開講座【学び直し機械振動～基礎から応用まで～】	京都グリーンラボ
	公開講座「データサイエンス基礎」	情報工学・人間科学系
	京都アカデミアウィーク 2022 「空間を越えた身体接触を可能にするロボットハンドの開発」	情報工学・人間科学系
	公開講座「クラウドソフトウェア開発」	情報工学・人間科学系
	嵯峨キャンパス開設 100周年記念講演会	生物資源フィールド科学教育研究センター
	「未来環境を考える講演会」 ——循環型社会システムの研究と持続的社会の形成について——	繊維科学センター
	社会人教育公開講座【学び直し機械設計～材料から加工まで～】	京都グリーンラボ
	オープンファシリティセンター市民講座・先端技術講座 「最先端技術でのものを見る・操る」	オープンファシリティセンター
	「京の知恵」新価値創造講演会 「『サーキュラーマテリアル』繊維素材の完全循環を図る」	繊維科学センター
	ML (Museum & Library)連携企画 対談「高台寺寺跡——魅力の解明と伝統技術の継承——」	附属図書館
	ソーシャルインラクションデザイン研究会	情報工学専攻
体験入学・学習	育ててみよう!「ヤママユ」	京都北山やままゆ塾
	夏休み体験教室「自然いっぱいの中で畠探検しよう」	生物資源フィールド科学教育研究センター
	コンピュータのしくみ～マイコンでプログラミング体験～	情報工学課程
	子ども自然観察会「夏のおわりに秋の虫」	応用生物学系
	冬の体験教室「冬の畠探検 2022 冬のムシとさくもつのひみつ!？」	生物資源フィールド科学教育研究センター
その他	ミニ昆虫展：写真と標本から知る 京の虫たちの不思議な世界	京都北山やままゆ塾
	国際シンポジウム 「伝統から未来へ：ポスト CMOS への胎動 ——CeRAM: Correlated Electron Memory——」	京都グリーンラボ
	AIA 名誉フェロー記念シンポジウム 「シカゴの建築_ミースとライトを巡って」	AIA 名誉フェロー記念シンポジウム実行委員会
	「スケーラブルな高集積量子誤り訂正システムの開発」 キックオフシンポジウム	京都グリーンラボ
	OPEN TECH シンポジウム 「Ohmic Contacts for Wide and Ultrawide Bandgap Semiconductors」	材料化学系
	OPEN TECH シンポジウム「応用ゲノミクス公開セミナー」	応用生物学系

大学間交流/大学等連携

・大学間交流

本学は、大学間の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的とし、同志社大学、京都府立大学、京都教育大学など近隣の国公私立大学との間で、単位互換に関する協定を締結するとともに、大学コンソーシアム京都に加盟し、制度の充実を図っている。

さらに、本学、京都府立大学、京都府立医科大学との間では、3大学包括協定(令和3年度末をもって廃止)を足掛かりに、京都三大学教養教育研究・推進機構を設立して教養教育の共同化事業を展開し、人文・自然・社会といった従来からある科目に加え、リベラルアーツ・ゼミナーライズなど特色ある科目を各々の学生に提供している。

・単位互換制度に基づく特別聴講学生の派遣・受入状況 (2022年度実施分)

区分	同志社大学		京都府立大学		京都教育大学		大学コンソーシアム京都		合計	
	科目数	延人数	科目数	延人数	科目数	延人数	科目数	延人数	科目数	延人数
派遣	0	0	0	0	0	0	16	16	16	16
受入	1	1	1	6	1	1	4	6	7	14

・京都府立大学・京都府立医科大学との三大学教養教育共同化事業における学生の派遣・受入状況 (2022年度実施分)

i) 本学提供科目の他大学学生受講者数					
京都府立大学	京都府立医科大学	合計			
延科目数	延人数	延科目数	延人数	延科目数	延人数
30	916	30	245	60	1,161

ii) 他大学提供科目の本学学生受講者数

京都府立大学提供科目		京都府立医科大学提供科目		京都三大学教養教育研究・推進機構提供科目	
延科目数	延人数	延科目数	延人数	延科目数	延人数
23	2,057	9	339	15	422
				47	2,818

・大学等連携 (2023年5月1日現在)

本学は、教育研究内容の充実や地域社会への一層の貢献等を目的とし、近隣の大学を中心に積極的に大学等との連携を進めている。
京都地域を中心に約 50 の大学・短期大学が参加する「大学コンソーシアム京都」による連携
京都府立大学及び京都府立医科大学との 3 大学の教養教育共同化による連携
京都産業大学との連携(学術交流)
京都ノートルダム女子大学との連携
京都府立医科大学、京都府立大学及び京都薬科大学との国公私立 4 大学によるヘルスサイエンス系の教育研究の連携
同志社大学との単位互換連携
京都府立大学との単位互換連携
京都教育大学との単位互換連携
舞鶴工業高等専門学校との連携
福知山公立大学との連携
近畿地区国立大学法人間の大規模災害等発生時の連携

小中高大連携/産学連携

・小中高大連携事業

(2022年度実施分)

本学では、地域社会への教育貢献として小中高大連携教育を推進し、出前授業および体験授業等を通じて双方の教育改善に資するとともに、次世代を担う青少年に対して、科学技術への関心を高める取り組みを行っている。

「スーパーイエンスハイスクール」指定校との連携事業

「京教リベラルアーツアクティビティ」京都教育大学附属高等学校との連携事業

「サイエンスガーデン」京都府教育委員会との連携事業

京都府教育委員会	京都府立洛西高等学校	京都府立洛北高等学校	城陽市立西城陽中学校	京都府立聾学校
「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」	京都府立宮津天橋高等学校	京都府立東宇治高等学校	亀岡市立育親中学校	宇治市立大開小学校

京都府立亀岡高等学校	京都府立大江高等学校	亀岡市立亀岡東学園	京田辺市立草内小学校
------------	------------	-----------	------------

京都府立西舞鶴高等学校	京都府立園部高等学校	亀岡市立千代川小学校	木津川市立木津川台小学校
-------------	------------	------------	--------------

京都府立城南菱創高等学校	長岡京市立アゼリアひろば	亀岡市立西別院小学校	綾部市立上林小学校
--------------	--------------	------------	-----------

京都府立清明高等学校	京丹波町立瑞穂中学校	亀岡市立吉川小学校	木津川市立恭仁小学校
------------	------------	-----------	------------

京都府立北嵯峨高等学校	綾部市立上林中学校	相楽東部広域連合立	綾部市立豊里小学校
-------------	-----------	-----------	-----------

京都府立洛東高等学校	京都府立福知山高等学校	亀岡市立青野小学校	木津川市立木津川台小学校
------------	-------------	-----------	--------------

京都府立鴨沂高等学校	亀岡市立南桑中学校	亀岡市立詳徳小学校	亀岡市立ひえ田野小学校
------------	-----------	-----------	-------------

京都府立丹後緑風高等学校	舞鶴市立加佐中学校	京丹後市立大宮第一小学校	亀岡市みらい教育 (久美浜学舎)
--------------	-----------	--------------	---------------------

京都府立山城高等学校	京都府立洛北高等学校	木津川市立相楽台小学校	京田辺市立大住小学校
------------	------------	-------------	------------

その他
理科わくわく体験教室(京丹後市)「虫たちの世界をのぞいてみよう!」

京都府立園部高等学校との連携事業

京都市立松ヶ崎小学校との連携事業「虫たちの世界をのぞいてみよう!(松ヶ崎の宝物:ヤママユについて)」

舞鶴工業高等専門学校との連携事業「あやべ理工系ことはじめ教室」

綾部市との包括連携協定に基づく連携事業「ものづくり連携事業」

・産学連携

(2022年度実施分)

本学では、産学連携を推進するための組織として、1990年に地域共同研究センターが設置され、以後、1995年に大学院ベンチャーラボラトリー、2005年にインキュベーションセンターなどが設置された。

その後、知的財産センターの設置や関係組織の統合等の改組を経て、

現在は「産学公連携推進センター」が産学公連携活動の中心を担っている。

「産学公連携推進センター」は、産学公連携に係る学内外の窓口として産学公連携活動の中心となり企業ニーズと大学シーズのマッチングによる共同研究や受託研究、そして研究者交流や地域社会との連携事業を通じて、積極的に社会貢献活動に取り組んでいる。また、これまで研究者個人と企業との関係になりがちであった共同研究の関係を「組織」対「組織」の関係へ発展させ、研究プロジェクトの大型化や知的財産の保護・活用、リカレント教育の展開など、産学連携の拡充を図っている。

また、地域社会・特に地域産業界のさらなる発展を目的として、「産学連携協力会」を設置している。主な事業として、産・学・公の研究者や事業担当者の交流、科学技術に関する研修会の実施、科学技術相談や共同研究等の推進、産学公連携に関する情報発信を行っており、加えて、会員企業のインターンシップや就職に関する情報を在学生へ提供することも行っている。

地域創生ネットワークを核とした地域社会人材育成および共同研究を推進するため、産学連携協力会会員企業数も拡大している。
(2022年度末時点328社加入)

産学連携・技術交流に関する連携協定の例

株式会社 SCREEN ホールディングス

NISSHA 株式会社

日新電機株式会社

マクセル株式会社

京都北都信用金庫

一般社団法人京都経済同友会

この他にも民間企業、金融機関、公設試験機関と多数締結

地域連携

・地域連携

(2022年度実施分)

本学は、千年の歴史を持つ京都の文化をバックグラウンドとして、

ものづくりやデザインなどの工学分野において実践的な高度専門技術者を養成する教育を行うとともに、

地元中小企業との共同研究の実施など地域に密着した教育研究活動を展開している。

特に、工科系大学のない京都府北部を中心に、ものづくり企業が有する技術・経営課題の解決を図るための取り組みや、小中学生への理数教育支援を推進してきた。

2013年度には、文部科学省2013年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、舞鶴工業高等専門学校と連携しながら、京都府北部におけるものづくりや観光産業の振興に取り組んだ。

また、2016年4月には「福知山キャンパス」を設置し、同キャンパスを学修拠点として、地域産業の活性化や地域課題の解決を担う技術者を育成する「地域創生Tech Program」を開設した。このプログラムを核として、府内各地の地域創生を担う人材育成事業が、文部科学省2015年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、京都府および府下の工業系・商工系経済団体を含む12の機関とともに推進した結果、地域貢献人材の育成を進めćiプラットフォームの構築につながった。

京都における地域貢献の中核となる大学として、京丹後キャンパスや福知山キャンパス、綾部地域連携室(北部産業創造センター内)を拠点に、府内の各自治体や学校、企業等と連携し、地域産業の振興、工学系人材の育成に向けて、各種地域貢献活動を展開している。

本学の地域貢献の3本の柱

地域振興に資する工学系高度専門技術者の養成

工学分野(機械・材料・物質・生命科学・デザイン・建築等の領域)における研究成果の地域への還元

地域の企業・学校・市民等への「知」の提供

本学のこれまでの連携の実績

京都府との包括協定

京都市との連携協定

京丹後市との包括協定

綾部市との包括協定

福知山市との包括協定

京都府教育委員会との連携協定

京都市教育委員会との連携協定

地元経済団体・企業・大学との連携

2022年度の主な事業

綾部工業研修所との連携による綾部市地域での上級機械技術者育成プログラム

京都府中丹地域における中堅技術者養成のための技術研修——電気科上級コース

京都工芸織維大学美術工芸資料館in福知山 part VII

令和4年度 京丹後市教育支援事業 理科わくわく体験教室「ピンホールカメラの作製(撮影・暗室での現像体験)」

与謝野町と連携した公共施設の再編計画

若者の酒プロジェクト

京都府北中部(丹後・中丹)地域を中心とした小中高生対象の教育連携事業

巨大迷路プロジェクト(あやべ温泉)

宮津駅再生プロジェクト

財政状況

• 貸借対照表
(2023年3月31日現在)

科目	金額(千円)
資産の部	
I. 固定資産	34,033,829
1. 有形固定資産	33,724,196
2. 無形固定資産	204,883
3. 投資その他の資産	104,750
II. 流動資産	4,326,807
現金及び預金	3,906,979
未収入金	391,432
その他の流動資産	28,395
資産合計	38,360,636
負債の部	
I. 固定負債	426,454
II. 流動負債	2,763,656
負債合計	3,190,111
純資産の部	
I. 資本金	29,640,105
II. 資本剰余金	△ 1,176,062
III. 利益剰余金	6,706,483
純資産の部合計	35,170,525
負債純資産合計	38,360,636

• 損益計算書
(2022年4月1日-
2023年3月31日)

科目	金額(千円)
経常費用	
業務費	8,755,475
一般管理費	8,358,453
その他の費用	396,887
経常収益	135
9,211,444	
運営費交付金収益	4,954,969
学生納付金収益	2,425,447
その他の収益	1,831,029
経常利益	455,969
臨時損失	△ 6,010
臨時利益	4,594,593
当期純利益	5,044,551
目的積立金取崩	96,741
当期総利益	5,141,292

• 収入/支出
(2022年度)

区分	金額(百万円)	比率(%)
運営費交付金	4,955	55.4%
施設整備費補助金	459	5.1%
補助金等収入	322	3.6%
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	20	0.2%
自己収入	1,960	21.9%
授業料、入会金及び検定料収入	1,843	20.6%
財産処分収入	-	0.0%
雑収入	117	1.3%
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	940	10.5%
引当金取崩	-	0.0%
目的積立金取崩	285	3.2%
合計	8,941	100.0%

[*1] 決算書ベースによる。

※ 2022年度の会計基準の改訂により、2021年度末の資産見返負債(固定負債)は全て収益化し臨時利益に計上したため、

前年度と比較して負債合計が減少し利益剰余金と当期純利益が増加しています。

※ 表示単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合があります。

※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じる場合があります。

外部資金受入状況/特許等出願状況

本学では、大学が有する専門的知識と技術を社会に還元し、その発展に貢献するためさまざまな形で産業界等との研究協力を実行している。
(産学連携推進センターについては16ページ参照)

区分	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	金額(千円)								
共同研究	145	202,895	154	204,125	144	180,754	136	160,082	140	200,342
受託研究等 ^[*1]	56	305,596	57	237,492	63	300,876	64	328,092	68	625,057
学術指導	41	31,868	49	28,707	39	23,482	48	43,692	51	35,004
奨学寄附金	167	126,711	141	126,816	101	78,311	97	90,438	115	129,185
合計	409	667,070	401	597,140	347	583,423	345	622,304	374	989,588

[*1] 受託研究等には、ナショナルバイオリソースプロジェクト等補助金を含む。

• 科学研究費
助成事業
(2023年3月31日現在)

区分	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	金額(千円)								
新学術領域研究(研究領域提案型)/計画研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究(研究領域提案型)/公募研究	2	4,420	3	6,630	5	15,080	4	13,780	3	9,100
学術変革領域(A)	2	1,020	3	1,530	5	3,480	4	3,180	3	2,100
学術変革領域(A)(公募研究)					1	64,740	1	13,130	1	26,390
学術変革領域(B)					1	14,940	1	3,030	1	6,090
基礎研究(A)	5	61,750	4	42,640	5	61,360	5	57,460	5	83,980
基礎研究(B)	5	14,250	4	9,840	5	14,160	5	13,260	5	19,380
基礎研究(C)	14	86,060	18	113,490	23	100,750	21	91,130	21	107,900
挑戦的萌芽研究	82	105,430	81	108,420	83	121,680	86	114,140	76	91,000
挑戦的研究(開拓)	82	24,330	81	25,020	83	28,080	86	26,340	76	21,000
挑戦的研究(萌芽)	12	37,310	15	34,190	9	23,660	10	29,770	11	32,240
若手研究(A)	2	7,410	1	2,600					1	2,790
若手研究(B)	2	1,710	1	600						
若手研究	10	11,310	3	4,030						
研究活動スタート支援	3	5,070	11	18,590	18	25,610	18	28,470	14	17,810
国際共同研究強化(B)	3	1,170	11	4,290	18	5,910	18	6,570	14	4,110
合計	137	326,950	137	332,020	147	422,110	149	375,440	141	404,560
	137	75,450	137	76,620	147	97,410	149	86,640	141	93,360

[*1] 締結部分は間接経費分を内数で示す。[*2] 空欄は公募がなかったことを示す。

• 特許等出願状況
(2023年3月31日現在)

区分	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	金額(千円)								
発明等届出件数	66	26	36	44	34	34	34	34	34	34
特許等出願件数 (右列は企業等との共同)	40	27	47	35	26	17	32	22	34	17
国際出願 ^[*2]	14	9	7	6	4	3	5	2	13	

厚生施設/研修施設/課外活動施設等

• 厚生施設

施設名	主な利用目的	構造	延面積
センターホール	式典、諸行事、特別講義、講演会、公開講座の開催や各種学会の学術講演会等に利用されている。	鉄筋コンクリート造3階建 (地下1階)	2,264m ²
60周年記念館	ギャラリーとして使用できるスペース、記念ホール、大小2種類のセミナー室があり、学外共同研究者の発表会や学会等に利用されている。	鉄骨造2階建	945m ²
KIT HOUSE (学生食堂)	1階には食堂(カフェテリア)、2階にはミニコープ、購買、ブックセンターがあり、学生と教職員のキャンパスライフをサポートしている。	鉄骨造2階建	1,605m ²
大学会館	研修室、ホール、食堂・喫茶などがあり、学生の課外活動や芸術・文化活動、学生と教職員のコミュニケーション促進の場として利用されている。	鉄筋コンクリート造3階建	2,166m ²
松ヶ崎KIT会館	研究者や教職員等の宿泊や諸会合・研修等に利用できる研究交流施設「工織会館」、同窓会の拠点として利用できる「同窓会パビリオン」、レセプションルームとして利用できる「KIT俱楽部」の3棟を設置している。	鉄筋コンクリート造2階建 木造1階建 木造2階建	425m ² 81m ² 157m ²
国際交流会館 (まりこうじ会館)	外国人留学生及び外国人研究者の居住その他国際交流上有意義と認められる場合に利用されている。	鉄筋コンクリート造4階建	2,869m ²

• 研修施設

施設名	主な利用目的	保有施設	構造	延面積
学道会館	教育研究活動を側面から支援する目的で日本新薬株式会社及び篤志家より寄附を受け、平成18年3月に嵯峨キャンパスに建設した。「学道会館」の名称は、学問を真摯に追求する学徒の集いなどを考え、道元禅師の「学道用心」を参考にして名付けられた。	大研修室 小研修室 研究者宿泊室2室 事務室	鉄骨造2階建	575m ²
京丹後キャンパス 地域連携センター	教育・研究・社会貢献上の各種事業を実施することにより、京丹後市の企業や市民と様々な分野で交流することを目的として、京丹後市の有期無償貸与により設置された施設である。本施設は、本学の教職員、学生の教育・研究や、リフレッシュスペース研修、合宿などにも利用されている。	多目的室 研修室 セミナー室 ラボスペース 宿泊室	鉄骨造2階建	1,195m ²

• 課外活動施設等

施設名	保有施設	構造	延面積
大学会館3階	文化団体連盟所属課外活動団体用部室等	鉄筋コンクリート造3階建	118m ² (課外活動に供する部分のみ)
文化サークル 共同利用施設	文化団体連盟所属課外活動団体用部室、音楽練習室、暗室	鉄筋コンクリート造2階建	478m ²
体育館	バスケットボール2面、バレーボール2面、バドミントン6面、卓球8面等に使用可能	鉄骨造平屋建	1,160m ²
武道場・ トレーニング室	剣道、合気道、空手、トレーニング室、シャワー室、用具室	鉄筋コンクリート造平屋建	612m ²
弓道場	弓道6人立、用具庫	木造平屋建	95m ²
プール	25m 7コース、機械室、倉庫、更衣室、シャワー室	鉄筋コンクリート造平屋建 (プール附属室)	990m ² (プール附属室) 92m ²
グラウンド	野球、サッカー、ラグビー、ラクロス、アメリカンフットボール等		13,453m ²
テニスコート	6面(オムニコート3面、クレーコート3面) 硬式テニス、軟式テニス		4,215m ²
体育器具庫	体育会所属課外活動団体器具庫、洗面、シャワー室	鉄骨造・プレハブ造 2階建	572m ²

土地・建物

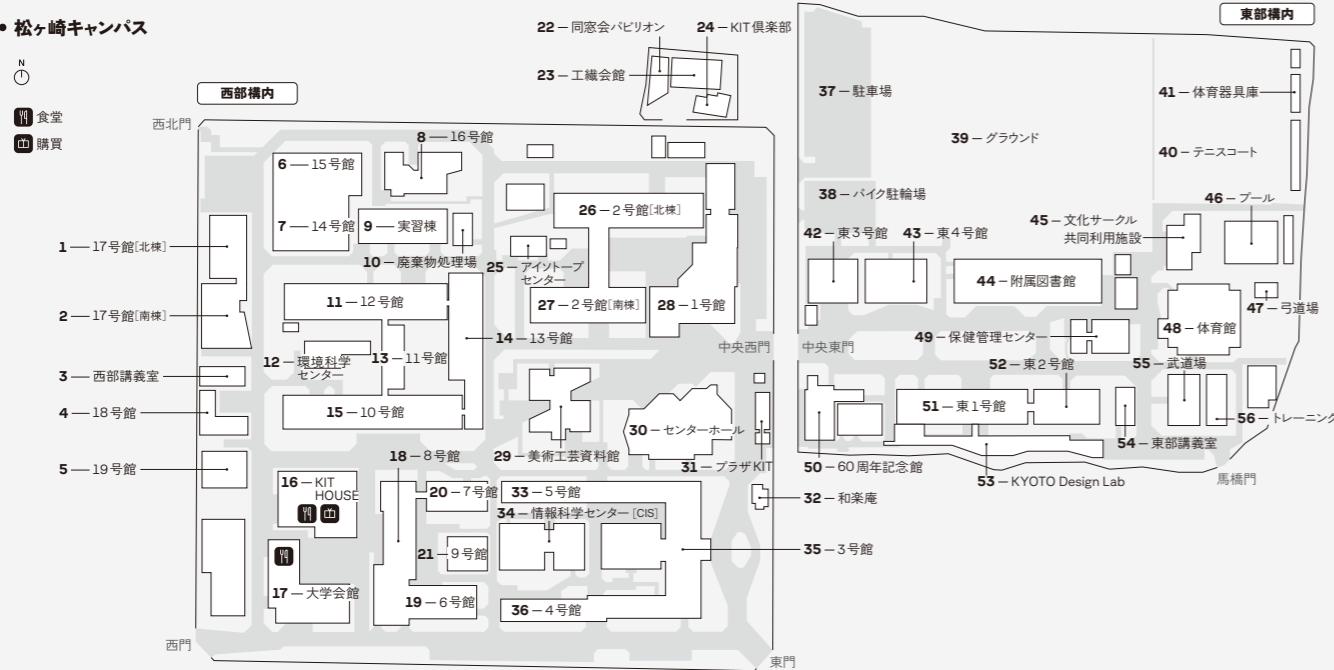
• 土地・建物

(2023年5月1日現在)

区分	所在地	土地面積	建物面積	建物面積内訳等
松ヶ崎キャンパス (東部構内)	京都市左京区松ヶ崎橋上町1	49,686m ²	23,344m ²	校舎 11,490m ²
		校舎敷地 31,028m ²		附属図書館 4,893m ²
		運動場敷地 17,668m ²		60周年記念館 945m ²
		プール敷地 990m ²		その他 6,016m ²
松ヶ崎キャンパス (西部構内)	京都市左京区松ヶ崎御所海道町	73,385m ²	82,489m ²	校舎 64,504m ²
		美術工芸資料館 2,296m ²		大学センターホール 2,264m ²
		大学会館 2,166m ²		13号館 3,937m ²
		16号館 1,510m ²		17号館 2,153m ²
		KIT HOUSE 1,605m ²		KIT俱楽部 157m ²
		その他 2,054m ²		
	京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1	1,184m ²	663m ²	工織会館 425m ²
				同窓会パビリオン 81m ²
				KIT俱楽部 157m ²
	京都市左京区松ヶ崎修理式町12-2他	5,710m ²	9,649m ²	松ヶ崎学生館 (民間業者による保有・管理・運営) 9,550m ²
				備蓄倉庫 99m ²
国際交流会館	京都市左京区吉田泉殿町6-2	1,851m ²	2,869m ²	まりこうじ会館
嵯峨キャンパス	京都市右京区嵯峨一本木町	58,152m ²	4,807m ²	生物資源フィールド 2,745m ² 科学教育研究センター
				ショウジョウバエ 1,487m ² 遺伝資源センター
				学道会館 575m ²
エコフィールド	京都市北区上賀茂本山	6,069m ²		
西陣宿舎	京都市上京区新町通上御靈前上ル 下清蔵口町483	7,247m ²	3,261m ²	
等待院宿舎	京都市北区等待院南町36-1	1,861m ²	929m ²	
福知山キャンパス	福知山市宇堀小字草池3385番地	8,222m ²	3,195m ²	A棟 136m ²
			B棟 1,980m ²	
			C棟 492m ²	
			D棟 521m ²	
			その他 66m ²	
綾部キャンパス	綾部市青野町西馬場下38-1	36m ²	36m ²	
合計		213,403m ²	131,242m ²	

キャンパスマップ/アクセスマップ

- 松ヶ崎キャンパス

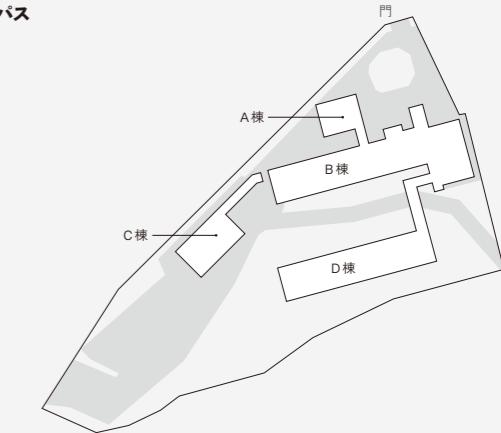


- | | | | | | | | |
|-----------|------------------|-----------|-------------------------|-----------|--|-----------|------------------------------|
| 1 | 17号館 [北棟] | 15 | 10号館 | 31 | プラザKIT | 43 | 東4号館 |
| 2 | 17号館 [南棟] | 16 | KIT HOUSE (学生食堂) | 32 | 和楽庵 | 44 | 附属図書館 |
| . | — | | | | | . | 情報管理課 学術情報係 |
| . | 京都グリーンラボ | | | | | | |
| 3 | 西部講義室 | 17 | 大学会館 | 33 | 5号館 | 45 | 文化サークル共同利用施設 |
| 4 | 18号館 | 18 | 8号館 | 34 | 情報科学センター [CIS] | 46 | プール |
| . | — | . | 電波暗室 | . | 情報管理課 情報企画係 | | |
| 5 | 19号館 | 19 | 6号館 | 35 | 3号館 | 47 | 弓道場 |
| 6 | 15号館 | 20 | 7号館 | . | 法人本部/事務局 | 48 | 体育館 |
| . | — | | | 3F | 施設環境安全課/国際課/
人事労務課/会計課/
研究推進・産学連携課 | 49 | 保健管理センター |
| . | TECH SALON (2階) | 21 | 9号館 | 2F | 法人本部/総務企画課 | . | — |
| 7 | 14号館 | 22 | 同窓会パビリオン | 1F | 学生支援・社会連携課/入試課/
総務企画課研究科等事務係/
会計課 | . | アクセシビリティ・
コミュニケーション支援センター |
| 8 | 16号館 | 23 | 工織会館 | . | — | 50 | 60周年記念館 |
| . | — | | | . | 産学公連携推進センター (3階) | | |
| . | 新素材イノベーションラボ | 24 | KIT俱楽部 | . | — | | |
| 9 | 実習棟 | 25 | アイソートープセンター | . | 高度技術支援センター (2階) | 51 | 東1号館 |
| 10 | 廃棄物処理場 | 26 | 2号館 [北棟] | . | — | 52 | 東2号館 |
| 11 | 12号館 | 27 | 2号館 [南棟] | 36 | 4号館 | 53 | KYOTO Design Lab |
| 12 | 環境科学センター | 28 | 1号館 | 37 | 駐車場 | 54 | 東部講義室 |
| 13 | 11号館 | 29 | 美術工芸資料館 | 38 | バイク駐輪場 | 55 | 武道場 |
| 14 | 13号館 | . | — | 39 | グラウンド | 56 | トレーニング室 |
| . | — | . | 情報管理課 資料館事業係 | 40 | テニスコート | | |
| . | オープンファシリティセンター | | | 41 | 体育器具庫 | | |
| . | — | | | 42 | 東3号館 | | |
| . | 繊維科学センター | 30 | センターホール | . | | | |
| . | — | . | 学務課 | . | | | |

- ・嵯峨キャンパス



• 福知山キャンパス



• 広域マップ



・アクセスマップ



学歌 / 学年曆

• 学歌

京都工芸繊維大学学歌

作詞 鈴木 国夫
作曲 京都音楽短期大学

作詞 鈴木 国夫
作曲 京都音楽短期大学

♩ = 132

<img alt="Musical score for '真理榮あれ' (Miki Eare). The score consists of four staves of music with lyrics in Japanese. The lyrics are as follows:</p>

まこと ははは えええ あああ れれれ わわわ かかか ききき わわわ ひひひ
 ににに いいい さささ いいい さささ ととと ももも 一一一 ににに ひおあ えおお いじそ ををら あああ おゆも ぎみと
 のゆか ぞくい みてな たはく かるみ かーく にて うすた ちすた ててて ててて ゆゆゆ かかか 一一一 んんん ふふふ ききき
 みみみ ややや ににに にのの ああみ しのの ききほ とみこ うち いい ちぞ う
 三 二 一 一

The score includes sections labeled 1.2., 3., and 4. The lyrics in section 4 begin with '若き吾らに いざいざ共に 比叡を仰ぎ 望み高く 打ちたてゆかん 古き都に 新しき塔'.

• 学年曆

4月	入学宣誓式 新入生オリエンテーション 前学期授業開始
5月	大学創立記念日(5月31日)
7月	前学期授業終了
8月	オープンキャンパス 前学期試験 夏季休業
9月	夏季休業 後学期授業開始
11月	松ヶ崎祭(学園祭)
12月	冬季休業
1月	冬季休業 後学期授業終了
2月	後学期試験 春季休業
3月	春季休業 学位記授与式

